

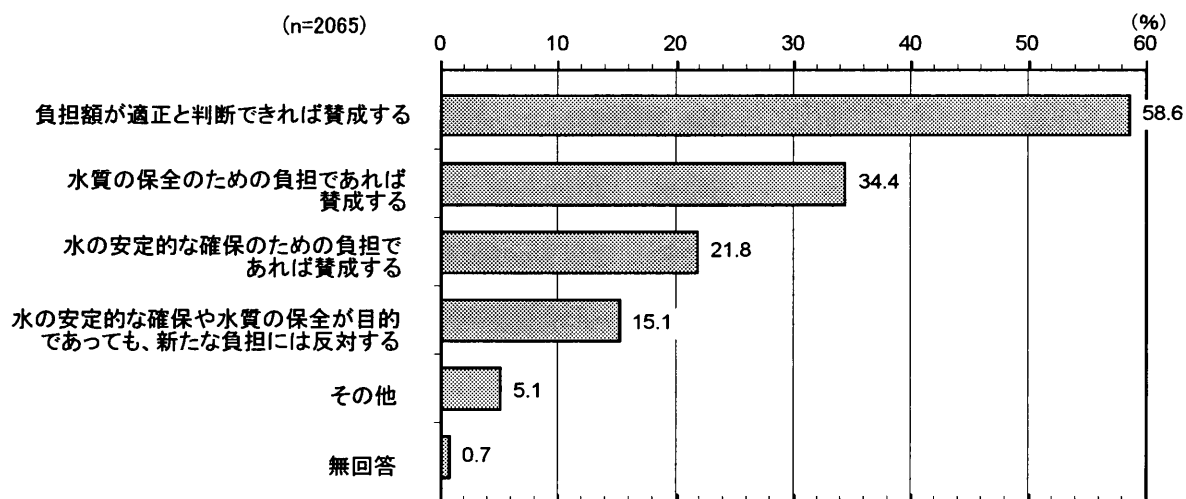
2 水源環境保全施策のための費用負担の考え方

(1) 水の安定的確保・水質保全のための費用負担の考え方〔問7 (MA)〕

【全体の状況】

水の安定的な確保や水質保全のために、県民がその費用を負担することについて2つ以内回答可として尋ねたところ、「負担額が適正と判断できれば賛成する」(58.6%)が最も多く、次いで「水質の保全のための負担であれば賛成する」(34.4%)、「水の安定的な確保のための負担であれば賛成する」(21.8%)が続き、賛成意見が上位を占めている。

図表 2-1-1 水の安定的確保・水質保全のための費用負担の考え方



【性・年代別の状況】

性別の比較でみると、男女ともに「負担額が適正と判断すれば賛成」、「水質の保全のための負担であれば賛成」、「水の安定的な確保のための負担であれば賛成」の賛成意見が上位を占めて高く、第1位の「負担額が適正と判断すれば賛成」は、女性（61.0%）が男性（56.8%）を4.2ポイント上回っている。

性・年代別でみると、「負担額が適正と判断すれば賛成」は、女性の20代以下（67.0%）、30代（72.5%）、40代（63.3%）で、また男性の40代（60.1%）で特に高い。

男性の70代以上では、「水質の保全のための負担であれば賛成」が最も高い比率を示している。

図表 2-1-2 水の安定的確保・水質保全のための費用負担の考え方（性・年代別）

	全体	男性	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	女性	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
(n=)	2065	948	92	141	170	261	200	81	1091	119	151	219	277	221	99
負担額が適正と判断できれば賛成	58.6	56.8	52.3	58.1	60.1	56.9	56.2	41.8	61.0	67.0	72.5	63.3	51.8	58.6	54.7
水質の保全のための負担であれば賛成	34.4	34.1	43.8	26.7	28.9	32.9	34.5	47.4	35.6	30.9	31.1	36.6	36.7	37.3	36.5
水の安定的な確保のための負担であれば賛成	21.8	23.6	23.5	16.9	17.2	23.3	28.2	35.6	20.4	14.6	11.4	19.1	24.8	19.6	31.1
水の安定的な確保や水質の保全が目的であっても新たな負担は反対	15.1	14.7	11.3	15.7	12.5	17.1	13.2	14.4	15.6	12.7	16.0	15.2	18.2	15.5	11.5
その他	5.1	5.7	4.1	13.0	7.5	4.7	2.4	1.6	4.7	5.4	6.6	4.9	4.4	3.3	3.0
無回答	0.7	0.8	0.0	0.0	1.5	0.9	0.6	2.3	0.7	0.0	0.0	0.4	1.0	0.7	1.0

(注) 選択肢は全体の回答率の高い順に並べ替えてある

【地域別の状況】

地域別にみると、津久井を除く地域はいずれも「負担額が適正と判断すれば賛成」、「水質の保全のための負担であれば賛成」、「水の安定的な確保のための負担であれば賛成」の順で賛成意見が上位を占める。津久井では、「新たな負担には反対」（26.3％）の意見が第2位にあげられている。

第1位の「負担額が適正と判断すれば賛成」は、川崎（60.6％）、県央（61.4％）、湘南（61.5％）、西湘（62.4％）で特に高い比率を示している。

図表 2-1-3 水の安定的確保・水質保全のための費用負担の考え方（地域別）

	全体	横浜	川崎	横須賀三浦	県央	湘南	足柄上	西湘	津久井
(n=)	2065	675	227	176	305	299	116	100	80
負担額が適正と判断できれば賛成	58.6	56.8	60.6	52.5	61.4	61.5	58.3	62.4	58.8
水質の保全のための負担であれば賛成	34.4	35.4	32.5	41.3	31.8	36.2	25.8	25.7	20.0
水の安定的な確保のための負担であれば賛成	21.8	24.3	20.8	29.1	15.9	18.9	22.5	19.8	17.5
水の安定的な確保や水質の保全が目的であっても新たな負担には反対	15.1	16.0	14.7	11.7	16.2	13.0	18.3	13.9	26.3
その他	5.1	4.9	5.6	3.9	5.2	5.6	6.7	5.0	10.0
無回答	0.7	0.7	0.4	2.2	0.3	0.0	0.0	3.0	0.0

【職業別の状況】

職業別にみると、パート（63.8%）、主婦（61.5%）、会社員・役員（60.5%）で「負担額が適正と判断できれば賛成」の割合は 6 割を超えて高い。公務員・教職員（44.5%）、「無職」（40.2%）では、「水質保全のための負担であれば賛成」の割合が比較的高くなっている。

図表 2-1-4 水の安定的確保・水質保全のための費用負担の考え方（職業別）

	全体	会社員・役員	公務員・教職員	自営業	農林漁業	主婦	パート	無職	年金受給者	その他
(n=)	2065	618	100	221	15	436	208	131	231	88
負担額が適正と判断できれば賛成	58.6	60.5	51.0	57.4	55.9	61.5	63.8	51.4	53.1	56.2
水質の保全のための負担であれば賛成	34.4	31.7	44.5	34.3	20.8	35.0	33.0	40.2	35.2	35.8
水の安定的な確保のための負担であれば賛成	21.8	19.6	34.7	20.1	8.8	20.0	21.6	23.3	27.0	23.9
水の安定的な確保や水質の保全が目的であっても新たな負担には反対	15.1	14.2	8.4	14.2	36.5	15.4	14.8	19.8	18.9	9.0
その他	5.1	5.1	6.0	5.5	13.2	4.9	5.6	3.7	3.0	9.2
無回答	0.7	0.8	1.0	0.7	0.0	0.4	0.3	1.4	1.2	0.0

【世帯年収別の状況】

世帯年収別にみると、ほとんどの階層で「負担額が適正と判断すれば賛成」、「水質の保全のための負担であれば賛成」、「水の安定的な確保のための負担であれば賛成」の順に賛成意見が高い割合を示している。世帯年収 1,201～1,400 万円のみ、トップの「負担額が適正と判断すれば賛成」(47.6%)と第2位の「水質の保全のための負担であれば賛成」(47.7%)がほぼ同比率で上位にあがっている。

図表 2-1-5 水の安定的確保・水質保全のための費用負担の考え方（世帯年収別）

	全体	0 ～ 2 0 0 万円	2 0 ～ 4 0 万円	4 0 ～ 6 0 万円	6 0 ～ 8 0 万円	8 0 ～ 1 0 0 万円	1 0 0 ～ 1 1 0 万円	1 1 0 ～ 1 2 0 万円	1 2 0 ～ 1 4 0 万円以上
(n=)	2065	91	359	436	338	237	144	70	93
負担額が適正と判断できれば賛成	58.6	56.0	57.7	61.3	62.9	58.0	52.9	47.6	53.8
水質の保全のための負担であれば賛成	34.4	26.8	36.0	33.4	32.7	40.5	37.6	47.7	41.4
水の安定的な確保のための負担であれば賛成	21.8	18.8	20.6	20.7	15.3	27.2	26.8	35.4	34.3
水の安定的な確保や水質の保全が目的であっても新たな負担には反対	15.1	27.8	17.1	6.7	14.7	8.9	14.7	5.5	6.5
その他	5.1	9.6	3.4	6.7	5.4	3.0	2.6	0.8	9.2
無回答	0.7	0.0	1.0	0.5	0.4	1.0	0.0	1.9	0.9

【「上水道の水質に対する安心感」別の状況】

上水道の水質に対する安心感別にみると、水質に「やや不安である」又は「かなり不安である」の回答者は「水質保全のための負担であれば賛成」を、また、「十分に安心できる」又は「まあまあ安心できる」の回答者は「水の安定的な確保のための負担であれば賛成」を選んでいる傾向がうかがえる。

図表 2-1-6 水の安定的確保・水質保全のための費用負担の考え方
(上水道の水質に対する安心感別)

	全体	十分に安心できる	まあまあ安心できる	やや不安である	かなり不安である
(n=)	2065	152	915	721	228
負担額が適正と判断できれば賛成	58.6	53.5	58.0	60.6	57.1
水質の保全のための負担であれば賛成	34.4	34.3	32.9	36.1	35.9
水の安定的な確保のための負担であれば賛成	21.8	35.6	23.7	18.2	16.8
水の安定的な確保や水質の保全が目的であっても新たな負担には反対	15.1	13.6	15.0	14.9	17.8
その他	5.1	5.2	4.3	4.4	11.1
無回答	0.7	0.0	0.7	0.8	0.6

【「水源の森林づくり事業に対する考え方」別の状況】

水源の森林づくり事業に対する考え方別にみると、「水源の森林づくり事業」は「現状より規模を縮小して実施した方がよい」の回答者において、第1位の「負担額が適正と判断できれば賛成」(45.4%)の次に「新たな負担には反対」(42.2%)の比率が高くなり、全体結果第2位の「水質の保全のための負担であれば賛成」(10.4%)、第3位の「水の安定的な確保のための負担であれば賛成」(15.7%)は10%台の低い比率にとどまっている。

図表 2-1-7 水の安定的確保・水質保全のための費用負担の考え方
(「水源の森林づくり事業」に対する考え方別)

	全体	いし現 て状 実よ 施り し規 た模 方が 拡よ 大	現 状の 規模 でよ い	いし現 て状 実よ 施り し規 た模 方が 縮よ 小	よ くわ から ない
(n=)	2065	1097	465	21	454
負担額が適正と判断できれば賛成	58.6	57.2	62.9	45.4	58.8
水質の保全のための負担であれば賛成	34.4	38.9	31.6	10.4	28.0
水の安定的な確保のための負担であれば賛成	21.8	27.2	16.9	15.7	14.1
水の安定的な確保や水質の保全が目的であっても新たな負担には反対	15.1	10.9	17.6	42.2	22.1
その他	5.1	6.1	2.3	5.9	5.4
無回答	0.7	0.4	0.3	4.4	0.7

【「相模川上流ダム湖の水質に対する認知度」別の状況】

相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別にみると、「知らなかった」の回答者は「新たな負担に反対」が比較的高く、「知っていた」「詳しく知っていた」の回答者は「水質の保全のための負担であれば賛成」が比較的高い。

図表 2-1-8 水の安定的確保・水質保全のための費用負担の考え方
(相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別)

	全体	詳しく知っていた	知っていた	知らなかった
(n=)	2065	103	938	1012
負担額が適正と判断できれば賛成	58.6	44.9	60.0	58.5
水質の保全のための負担であれば賛成	34.4	37.6	37.4	31.6
水の安定的な確保のための負担であれば賛成	21.8	35.2	21.6	21.1
水の安定的な確保や水質の保全が目的であっても新たな負担には反対	15.1	13.8	13.6	16.5
その他	5.1	6.2	5.6	5.1
無回答	0.7	0.0	0.5	0.6

(2) 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額と反対理由

〔問8～問11〕

本県が水源の森林づくり事業や生活排水処理の取り組みをこれまで以上に充実させると仮定し、新たな費用負担の仕組みを導入することに対して、5種類の負担額のパターンに分けて各パターンにつき600人ずつに対しその賛否を尋ねたところ、次のような結果であった。

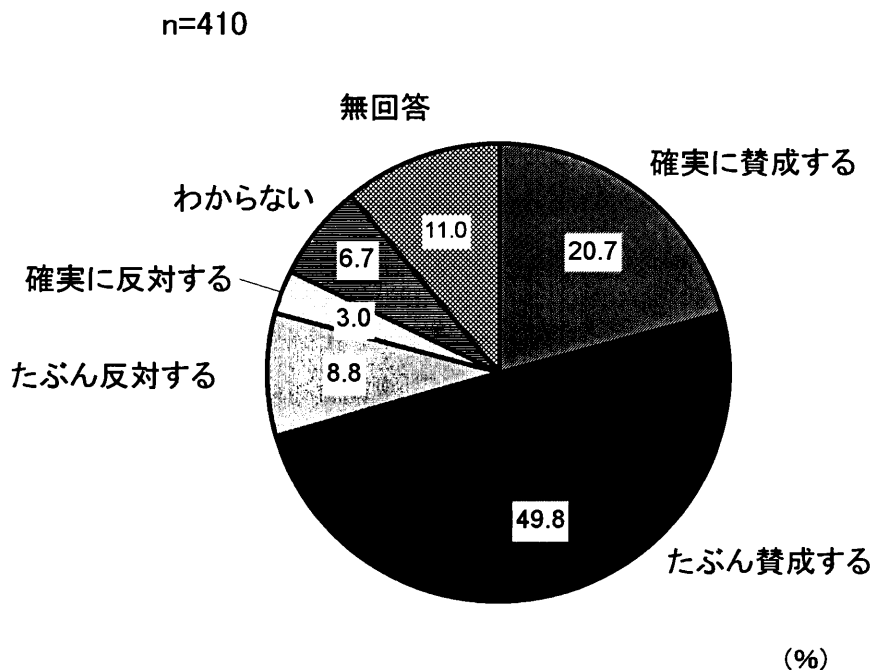
パターン1

①年間の森林保全面積約1,200ha（現行約800ha）、生活排水処理施設の年間整備率8%（現行約5%）に取り組むため、1世帯当たり月間50円（年間600円）を負担することの賛否を尋ねた。（問8）

【全体の状況】

「確実に賛成する」（20.7%）と「たぶん賛成する」（49.8%）を合わせた賛成の回答は7割を占める。一方、反対の回答は11.8%である。

図表 2-2-1-1 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間50円を負担することの賛否）



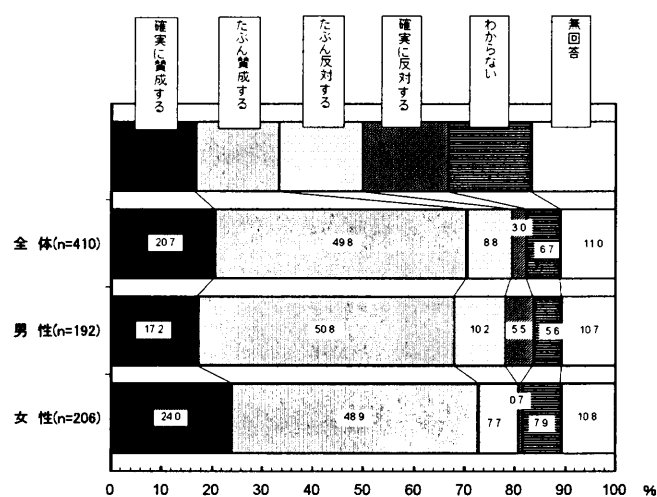
【性・年代別の状況】

性別の比較でみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、女性（72.9%）が男性（68.0%）を4.9ポイント上回る。

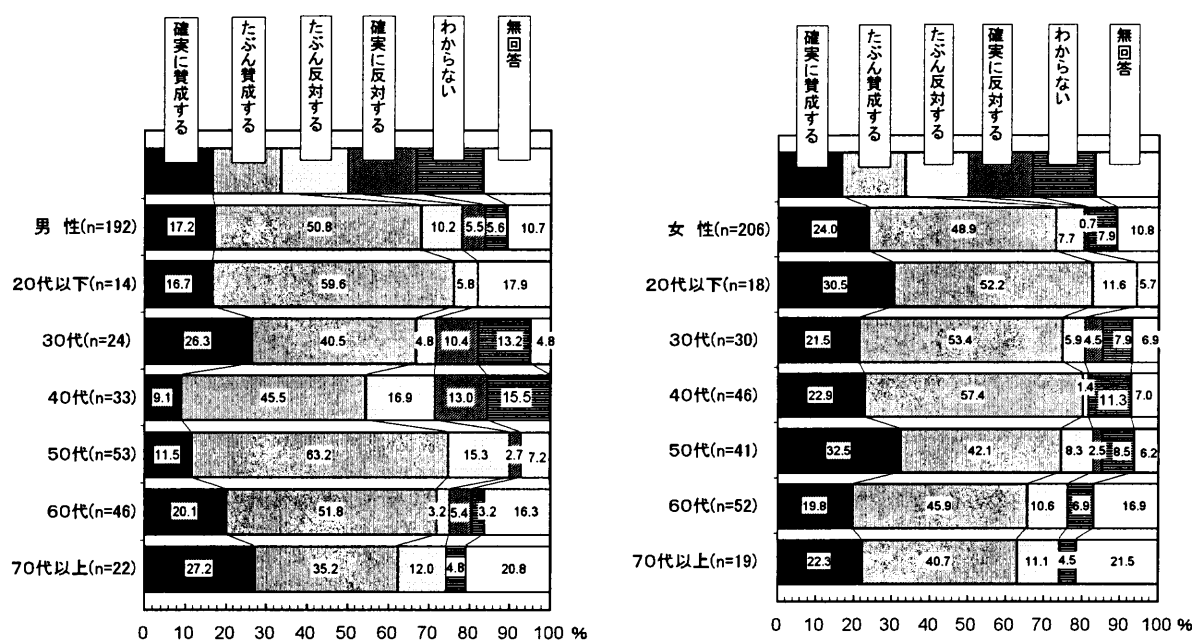
性・年代別にみると、男性で賛成は、20代以下（76.3%）、50代（74.7%）で高く、女性では20代以下（82.7%）、40代（80.3%）で高くみられる。

「たぶん反対する」と「確実に反対する」を合わせた反対意見が最も多かったのは40代の男性（29.9%）である。

図表 2-2-1-2 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間50円を負担することの賛否/性別)



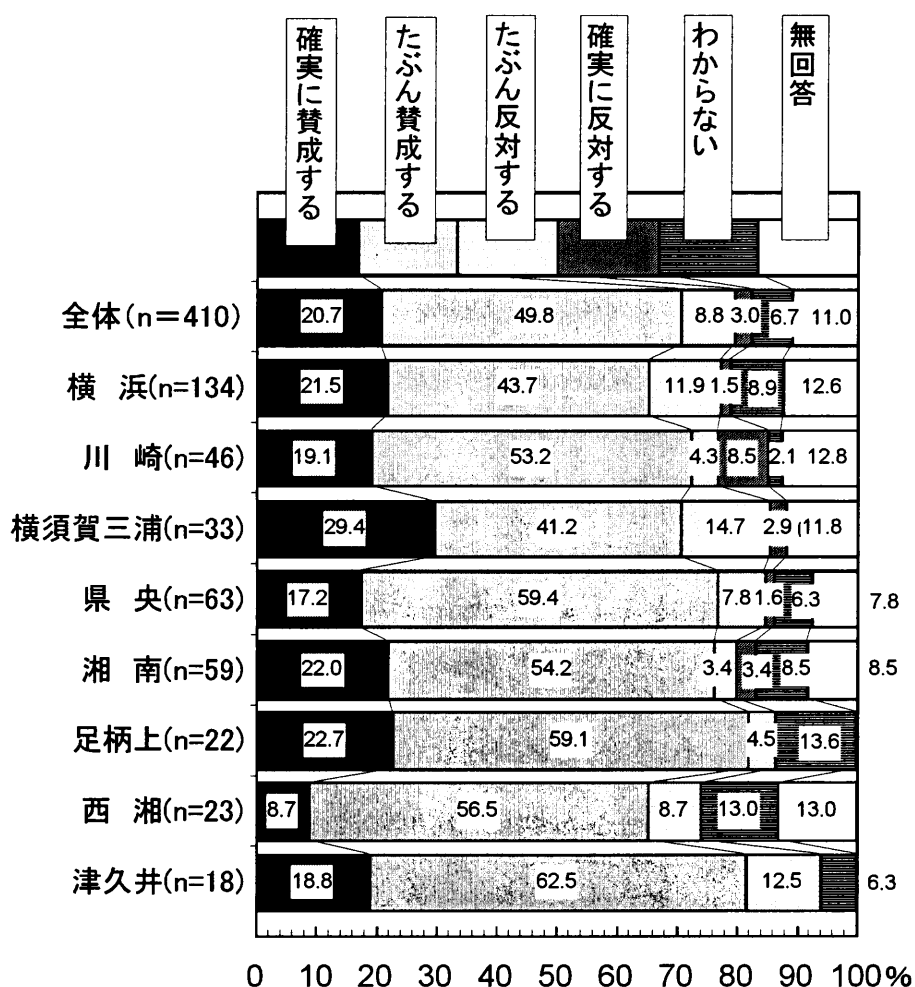
図表 2-2-1-3 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間50円を負担することの賛否/性・年代別)



【地域別の状況】

地域別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、足柄上（81.8%）と津久井（81.3%）で特に高く、西湘（65.2%）、横浜（65.2%）で最も低くなっている。

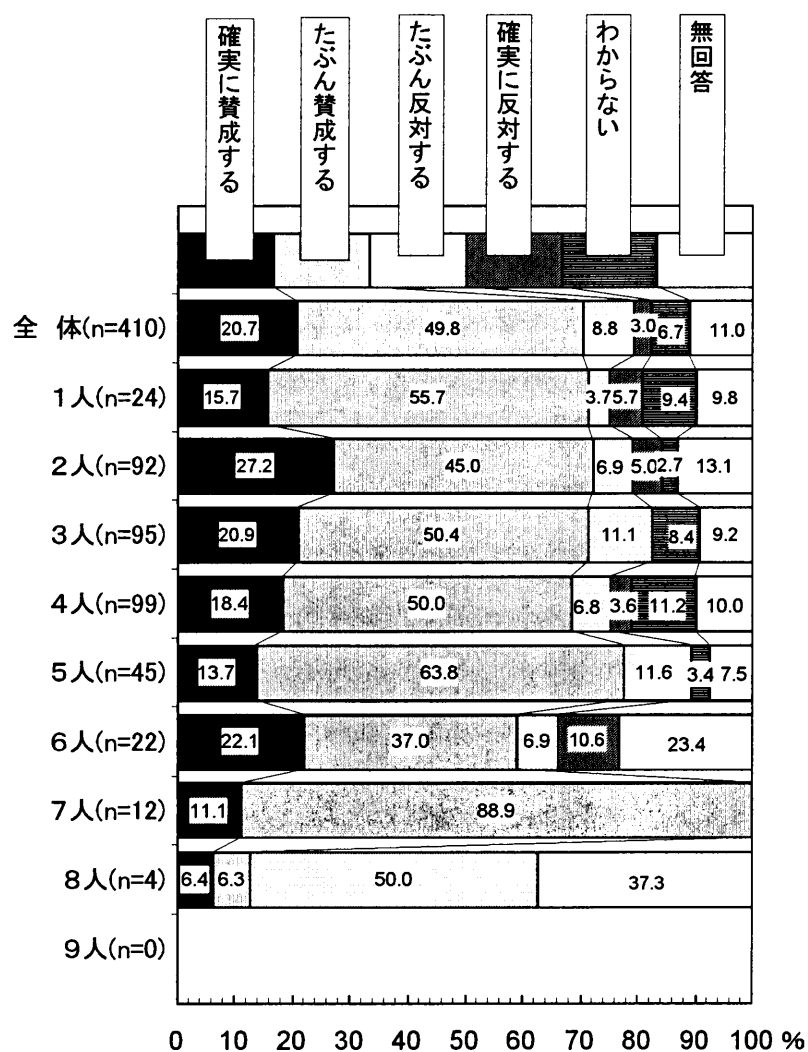
図表 2-2-1-4 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間50円を負担することの賛否／地域別）



【世帯員数別の状況】

世帯員数別にみると、世帯員数4人までは「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合が7割前後を占めており、5人家族の世帯では8割近く（77.5%）を占める。

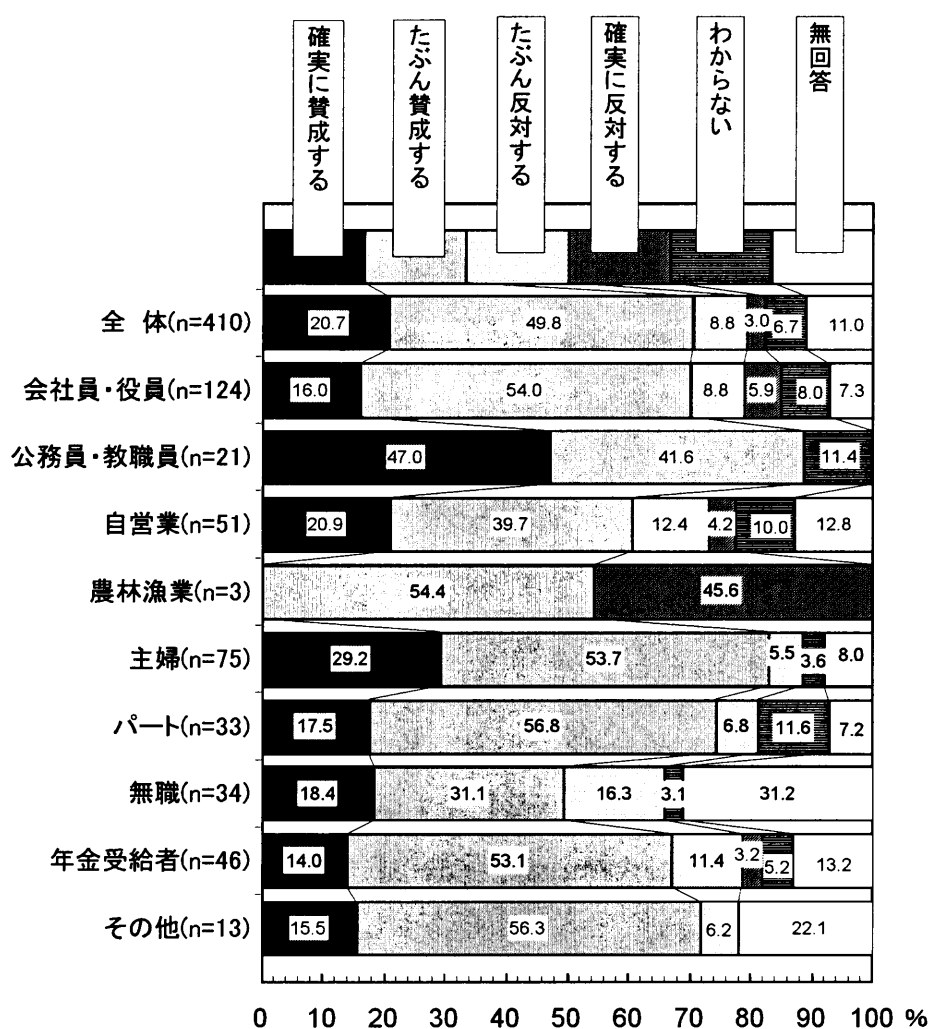
図表 2-2-1-5 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間50円を負担することの賛否/世帯員数別)



【職業別の状況】

職業別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、公務員・教職員（88.6%）、主婦（82.9%）で特に高い。

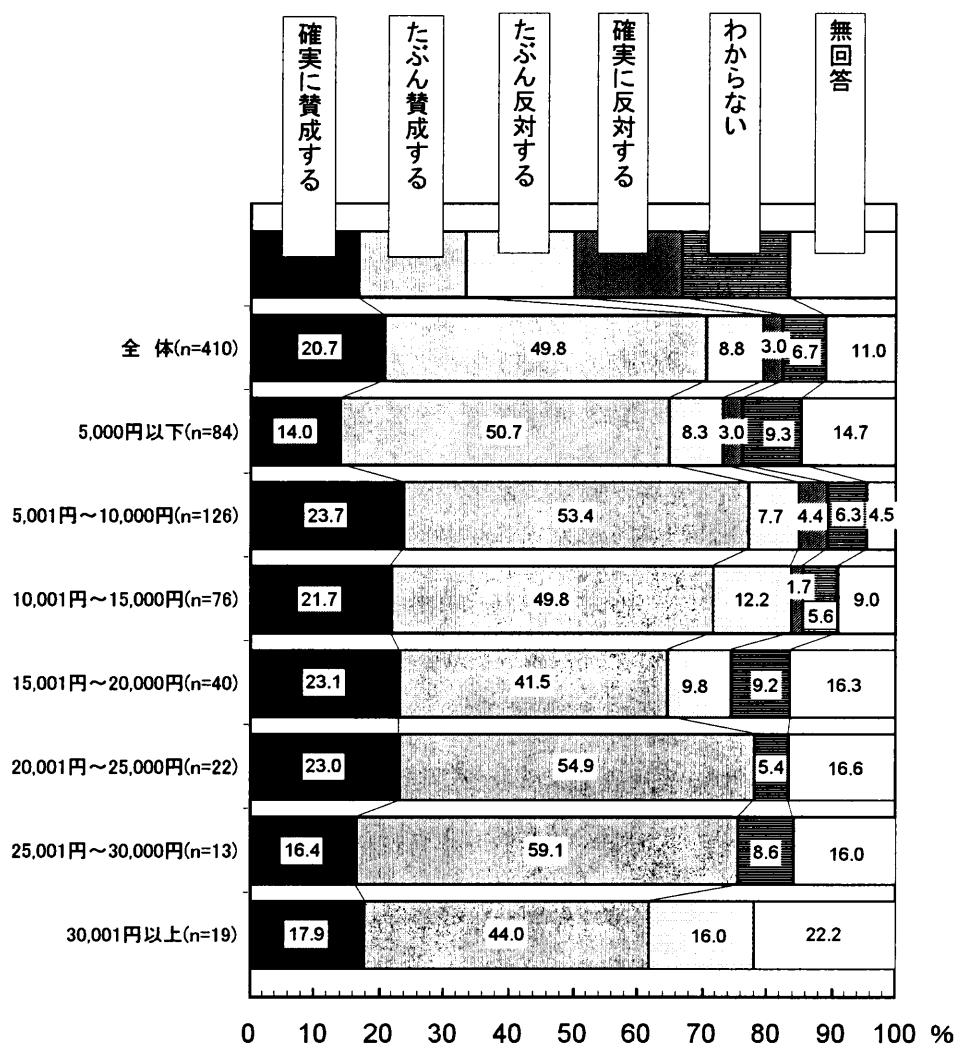
図表 2-2-1-6 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 50 円を負担することの賛否／職業別）



【水道料金別の状況】

水道料金別（2ヶ月）にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、20,001～25,000円の世帯（77.9%）、5,001～10,000円の世帯（77.1%）などに高くみられる。

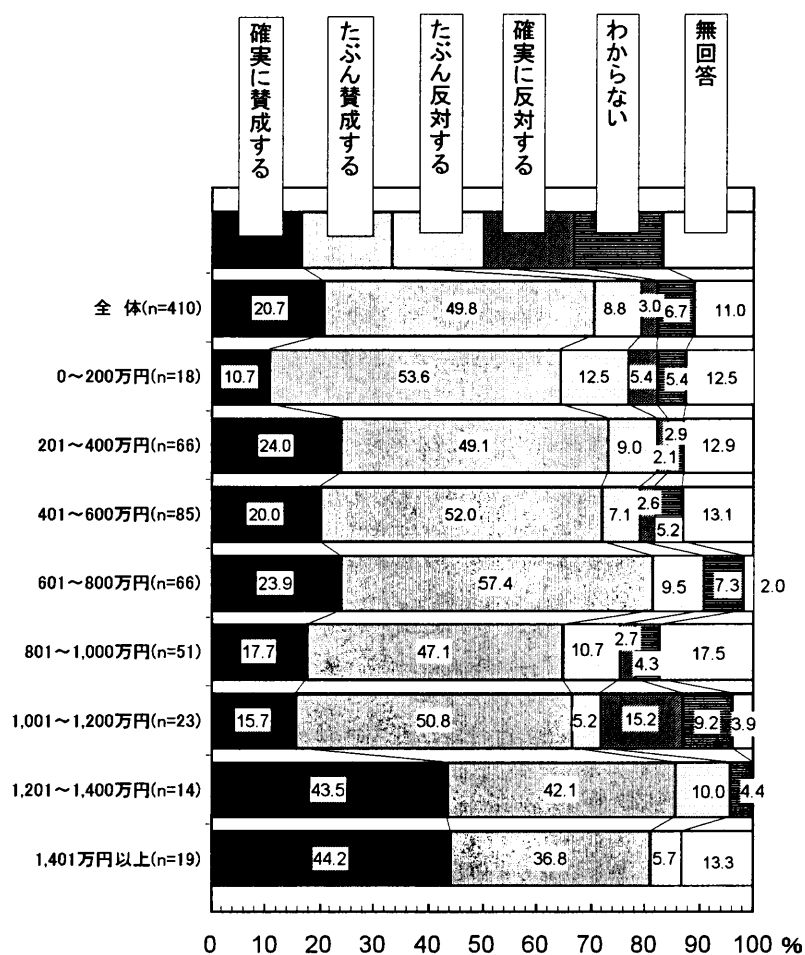
図表 2-2-1-7 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間50円を負担することの賛否／水道料金別）



【世帯年収別の状況】

世帯年収別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、年収 1,201～1,400 万円の世帯（85.6%）や年収 601～800 万円の世帯（81.3%）などで 8 割を超え高くなっている。

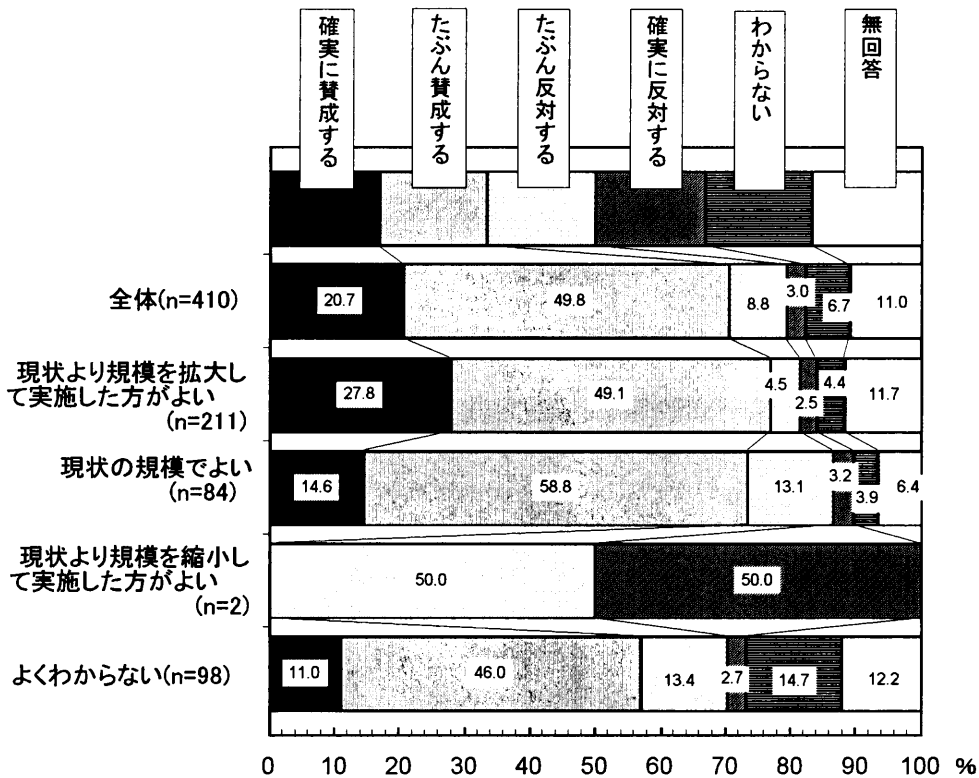
図表 2-2-1-8 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間 50 円を負担することの賛否/世帯年収別)



【「水源の森林づくり事業に対する考え方」別の状況】

水源の森林づくり事業に対する考え方別にみると、「現状より規模を拡大して実施した方がよい」の回答者において、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合が76.9%と若干高く、特に「確実に賛成する」の割合が27.8%を占めている。

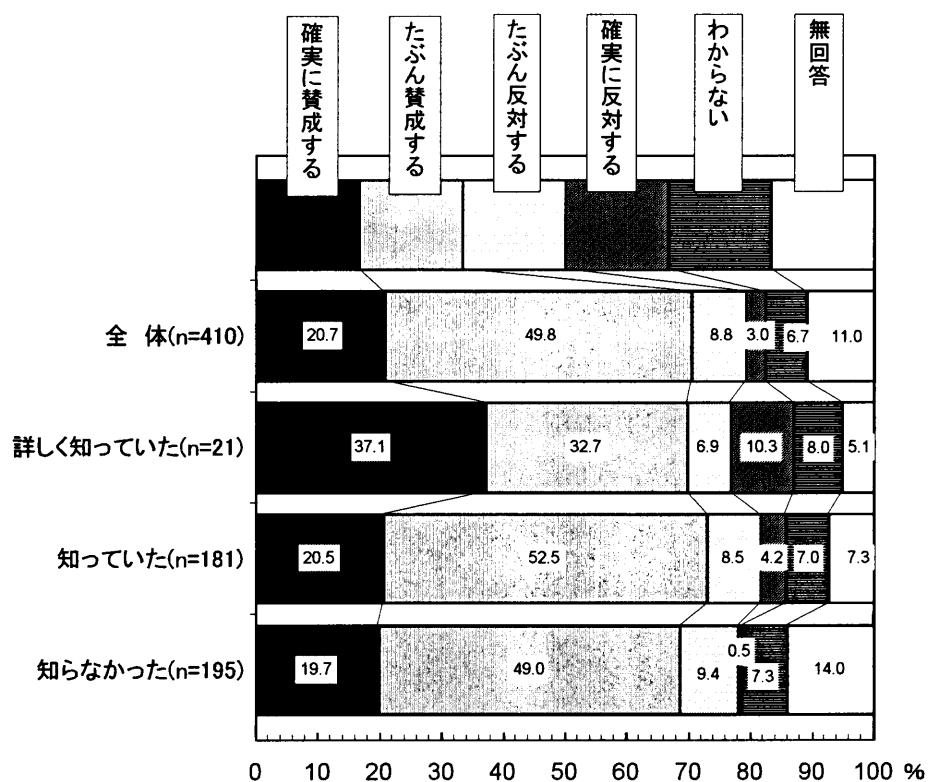
図表 2-2-1-9 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間50円を負担することの賛否/水源の森林づくり事業に対する考え方別)



【「相模川上流ダム湖の水質に対する認知度」別の状況】

相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別にみると、「詳しく知っていた」の回答者において、「確実に賛成する」の割合が37.1%とかなり高くなっている。

図表 2-2-1-10 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
 (月間50円を負担することの賛否/相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別)

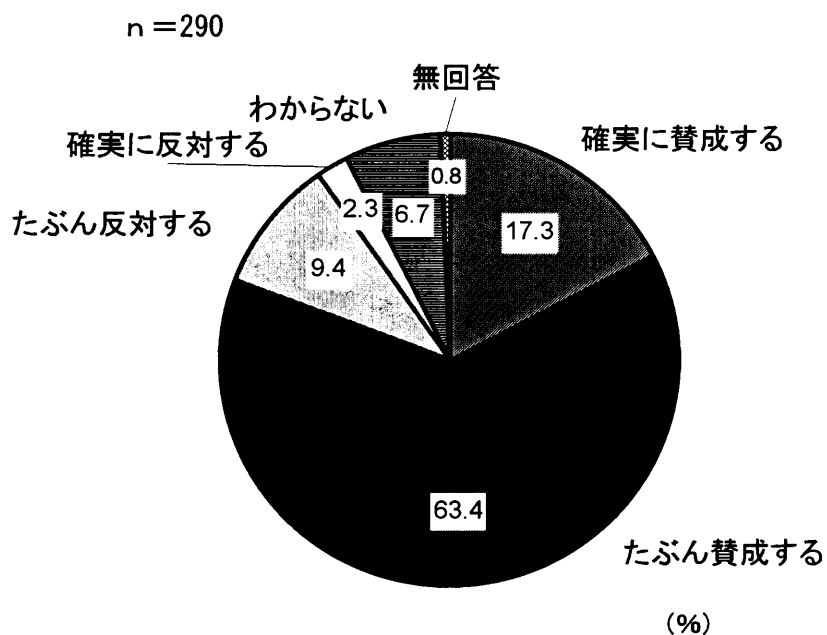


②月間 50 円の負担について尋ねた問 8 の「確実に賛成する」又は「たぶん賛成する」の回答者に対し、同様の整備条件のもと 1 世帯当たり月間 100 円（年間 1,200 円）を負担することの賛否を尋ねた。（問 9）

【全体の状況】

「確実に賛成する」（17.3%）と「たぶん賛成する」（63.4%）を合わせた賛成の回答は 8 割を超えている。

図表 2-2-1-11 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 100 円を負担することの賛否）

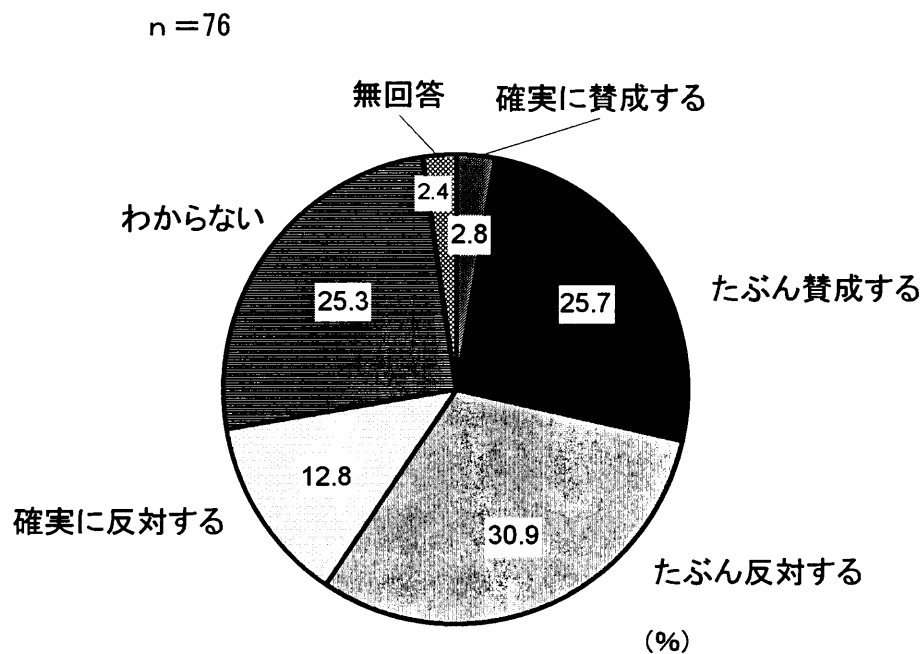


③月間 50 円の負担について尋ねた問 8 の「確実に反対する」、「たぶん反対する」又は「わからない」の回答者に対し、同様の整備条件のもと 1 世帯当たり月間 20 円（年間 240 円）を負担することの賛否を尋ねた。（問 10）

【全体結果】

「確実に反対する」（12.8%）と「たぶん反対する」（30.9%）を合わせた反対の回答は 4 割以上であるが、負担額が 20 円になることにより、賛成すると回答した方は 3 割弱（28.5%）である。

図表 2-2-1-12 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 20 円を負担することの賛否）



④月間 20 円の負担について尋ねた問 10 の「確実に反対する」、「たぶん反対する」又は「わからない」の回答者に対し、その理由を 2 つ以内回答可として尋ねた。(問 11)

【全体の状況】

「水源の保全には賛成だが、他の対策を取るべきだと思うから」(56 件中 22 件)が最も多く、次に「この政策の恩恵をうける地域に住んでいないと思うから」(10 件)が続く。

※「その他」を除く。

図表 2-2-1-13 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担の反対理由
(月間 20 円の負担の反対理由)

水量および水質を保全するための負担額反対の理由(N=51)	回答数
水源の保全には賛成だが、他の対策を取るべきだと思うから	22
その他	16
この政策の恩恵を受ける地域に住んでいないと思うから	10
森林の荒廃や水質の汚濁がそれほど進んでいるとは思わないから	5
提示された負担額が高いから。もっと低い金額であれば賛成する	3
合計	56

森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額と反対理由

〔問8～問11〕

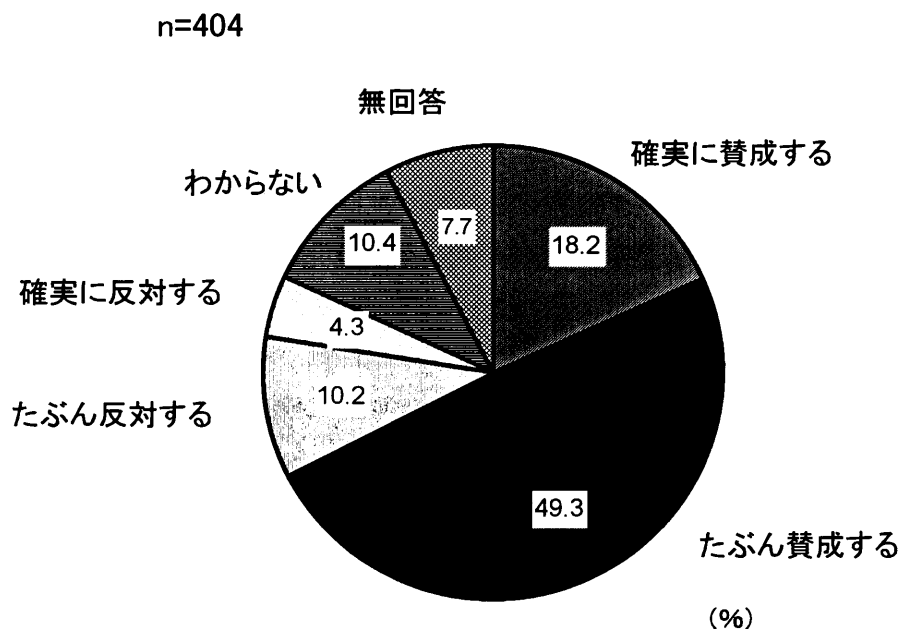
パターン2

①年間の森林保全面積約 1,200ha（現行約 800ha）、生活排水処理施設の年間整備率 8%（現行約 5%）に取り組むため、1世帯当たり月間 100 円（年間 1,200 円）を負担することの賛否を尋ねた。（問8）

【全体の状況】

「確実に賛成する」（18.2%）と「たぶん賛成する」（49.3%）を合わせた賛成の回答は 67.5% と 7割に近い。一方、反対の回答は 14.5%である。

図表 2-2-2-1 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 100 円を負担することの賛否）



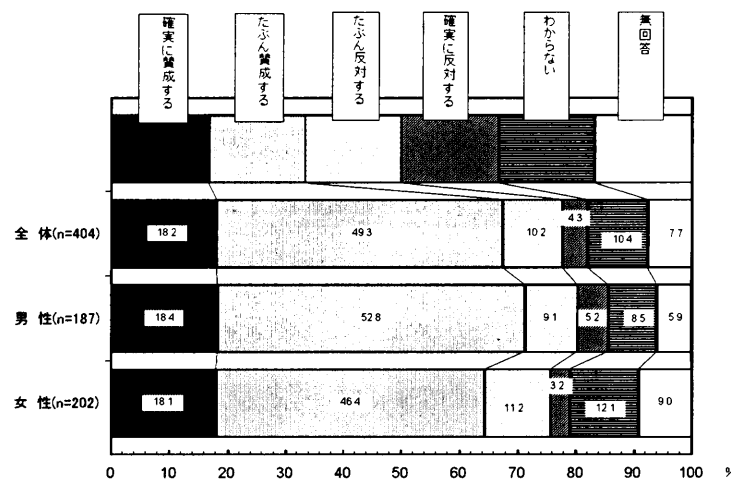
【性・年代別の状況】

性別の比較でみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、男性（71.2%）が女性（64.5%）を6.7ポイント上回る。

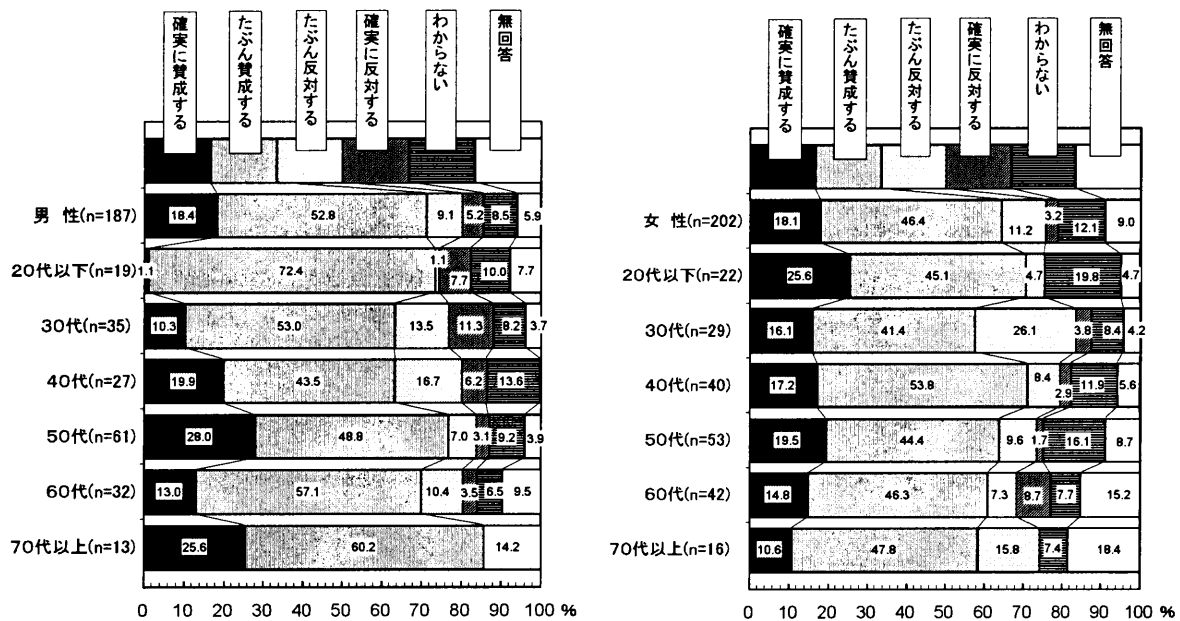
性・年代別にみると、男性で賛成は、20代以下（73.5%）、50代（76.8%）、70代以上（85.8%）で高く、女性では20代以下（70.7%）、40代（71.0%）で高くみられる。

「たぶん反対する」と「確実に反対する」を合わせた反対意見が最も多かったのは30代の女性（29.9%）である。

図表 2-2-2-2 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間100円を負担することの賛否/性別）



図表 2-2-2-3 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間100円を負担することの賛否/性・年代別）

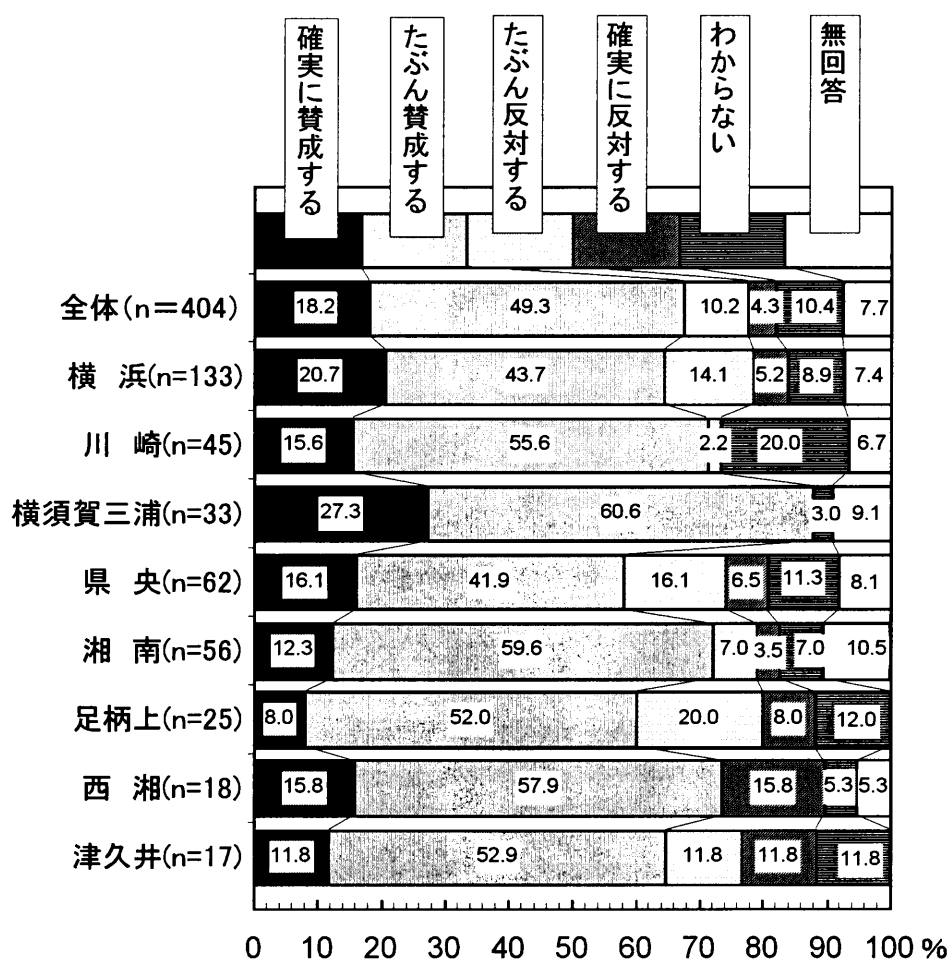


【地域別の状況】

地域別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、横須賀三浦（87.9%）で特に高く、県央（58.0%）で最も低い。

横須賀三浦では、「確実に賛成」の割合が27.3%と高い。

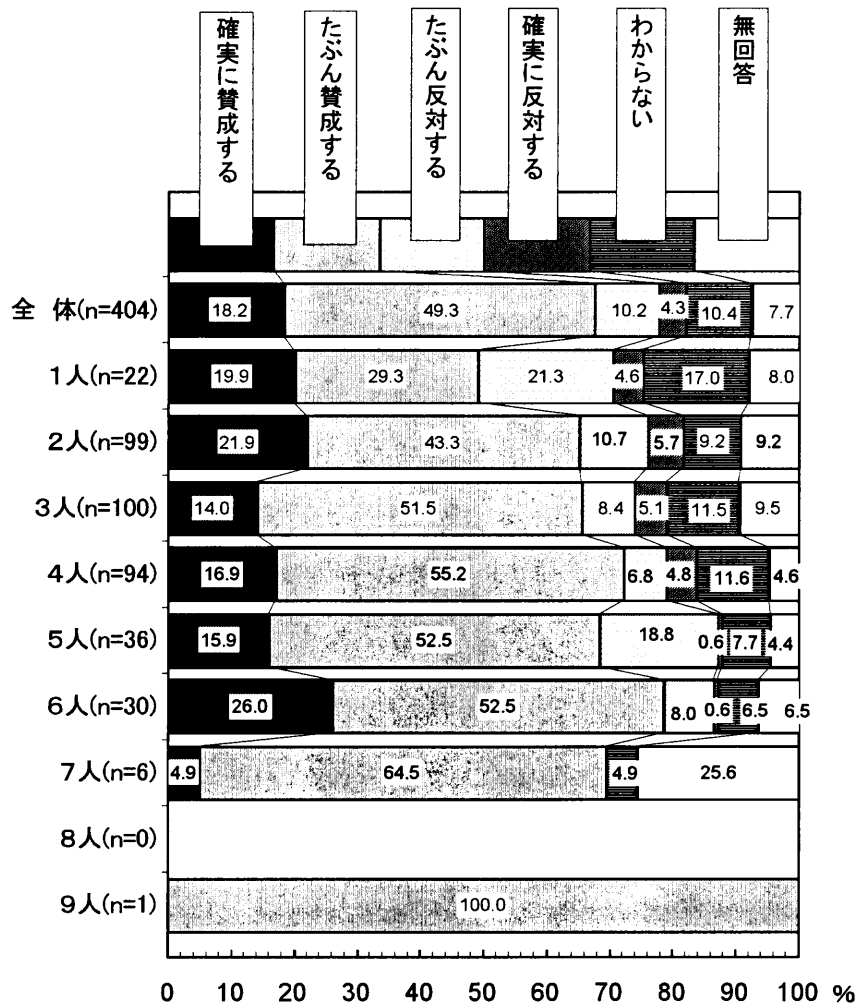
図表 2-2-2-4 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間100円を負担することの賛否／地域別）



【世帯員数別の状況】

世帯員数別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、6人家族の世帯（78.5%）などで7割を超えている。

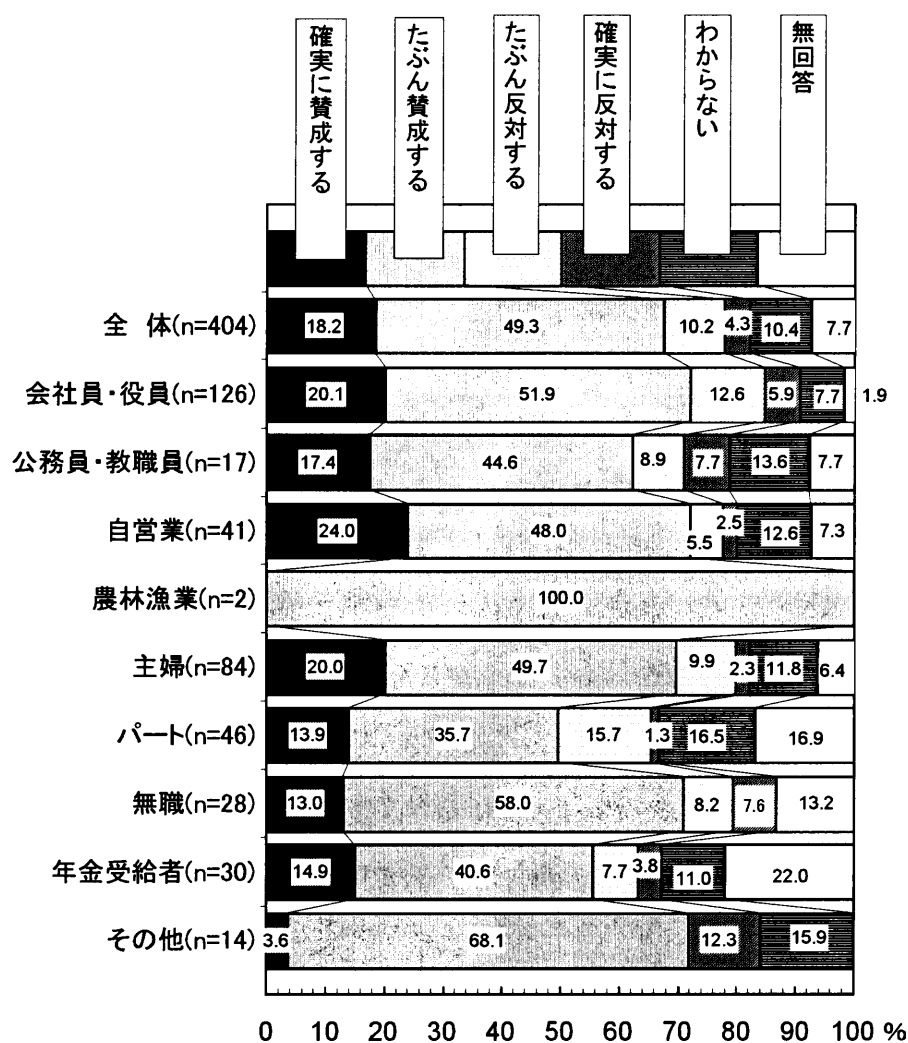
図表 2-2-2-5 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間100円を負担することの賛否／世帯員数別）



【職業別の状況】

職業別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、会社員・役員（72.0%）、自営業（72.0%）などで7割を超えている。

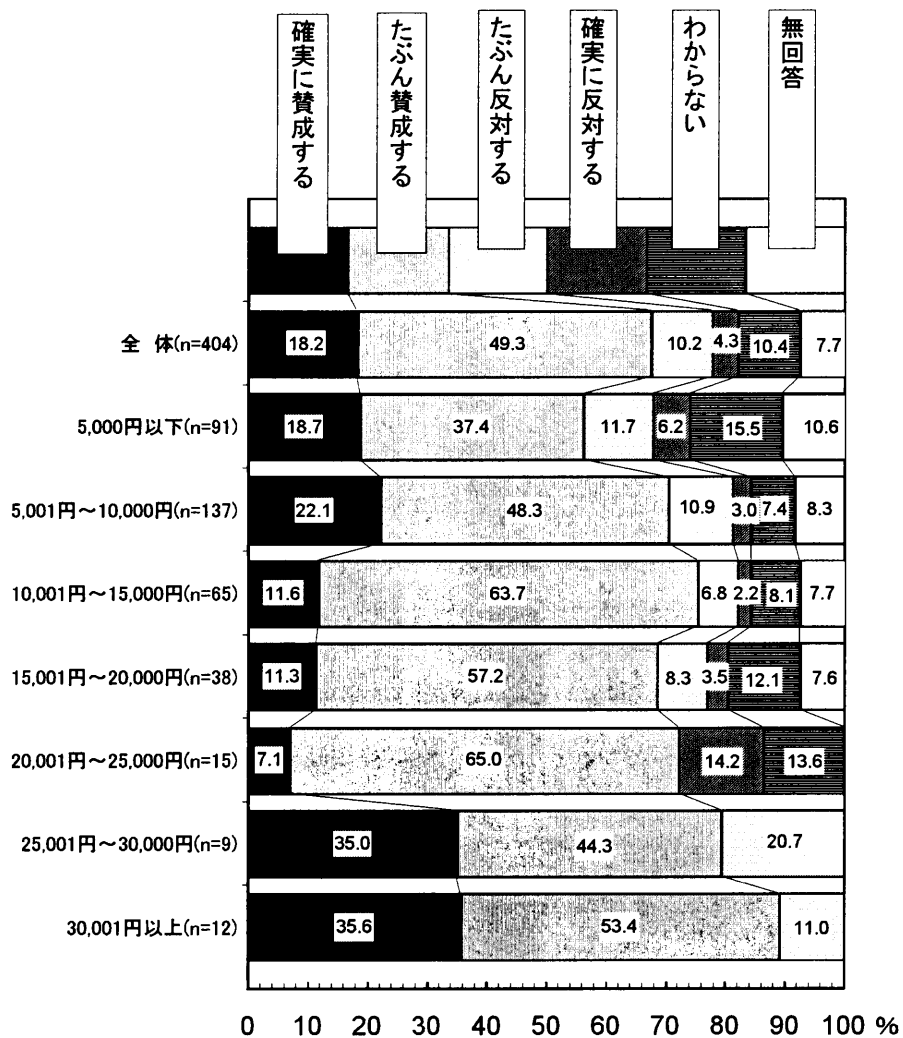
図表 2-2-2-6 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 100 円を負担することの賛否／職業別）



【水道料金別の状況】

水道料金別（2ヶ月）にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、30,001円以上（89.0%）、25,001～30,000円（79.3%）、10,001～15,000円（75.3%）などの世帯で高い。

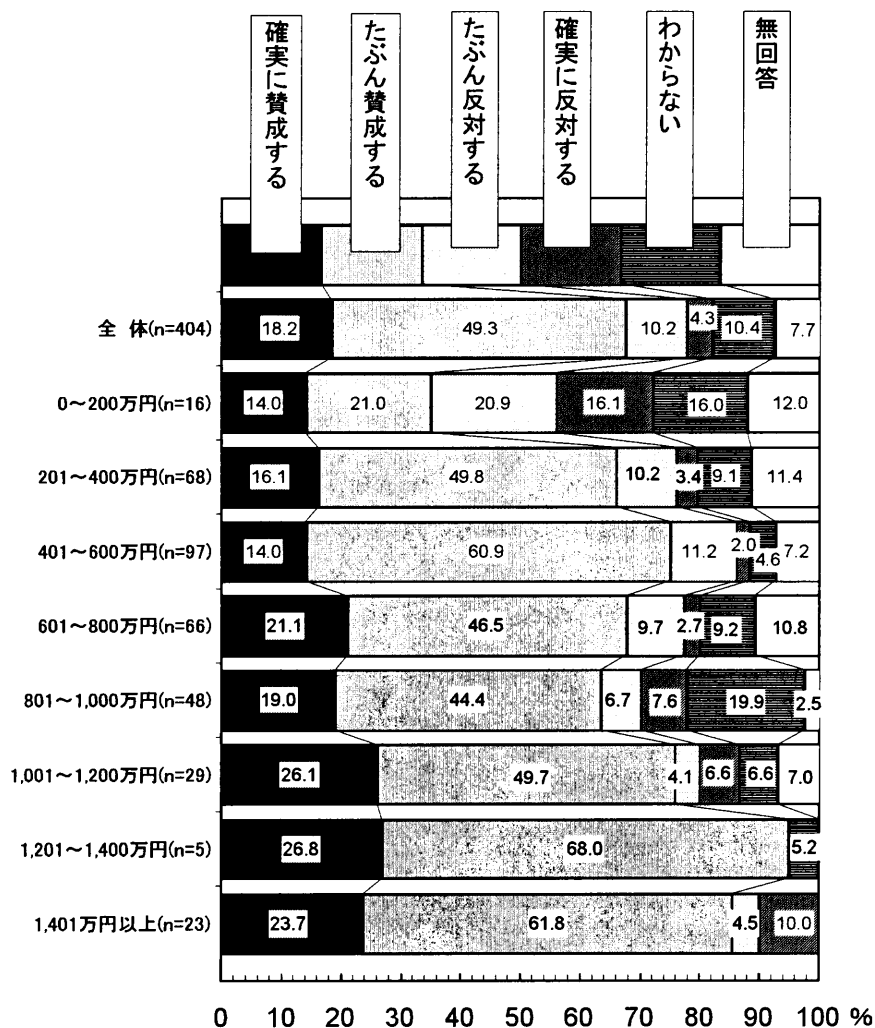
図表 2-2-2-7 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間100円を負担することの賛否／水道料金別）



【世帯年収別の状況】

世帯年収別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、年収 1,201～1,400 万円の世界帯 (94.8%)、1,401 万円以上の世帯 (85.5%) などが高くなっている。

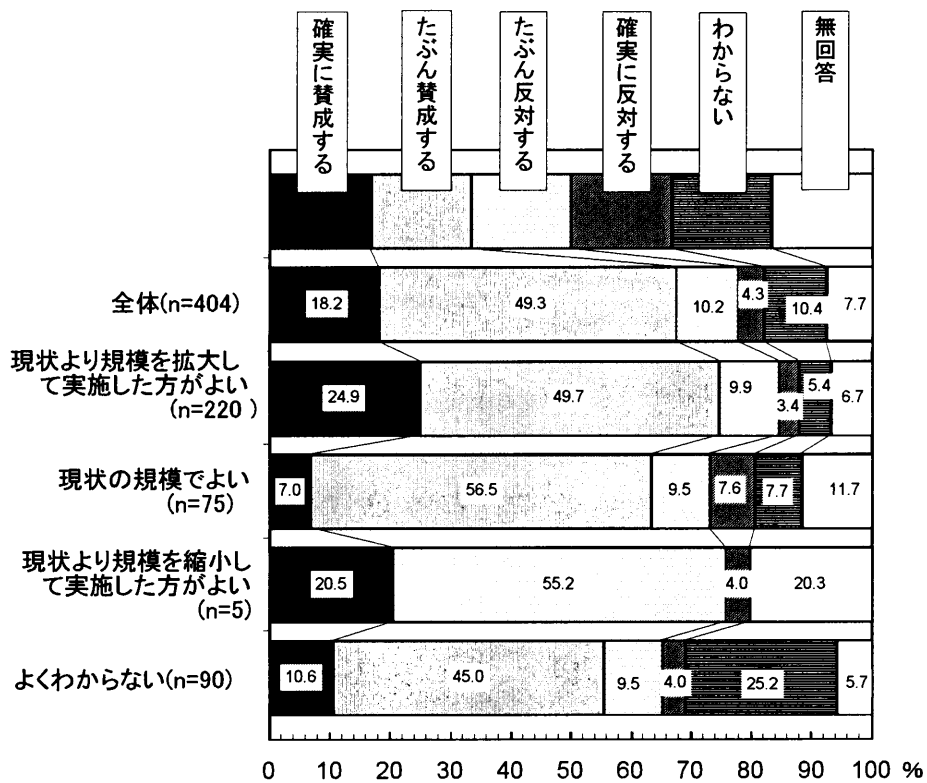
図表 2-2-2-8 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間 100 円を負担することの賛否/世帯年収別)



【「水源の森林づくり事業に対する考え方」別の状況】

水源の森林づくり事業に対する考え方別にみると、「現状より規模を拡大して実施した方がよい」の回答者において、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合が74.6%と若干高くなっている。

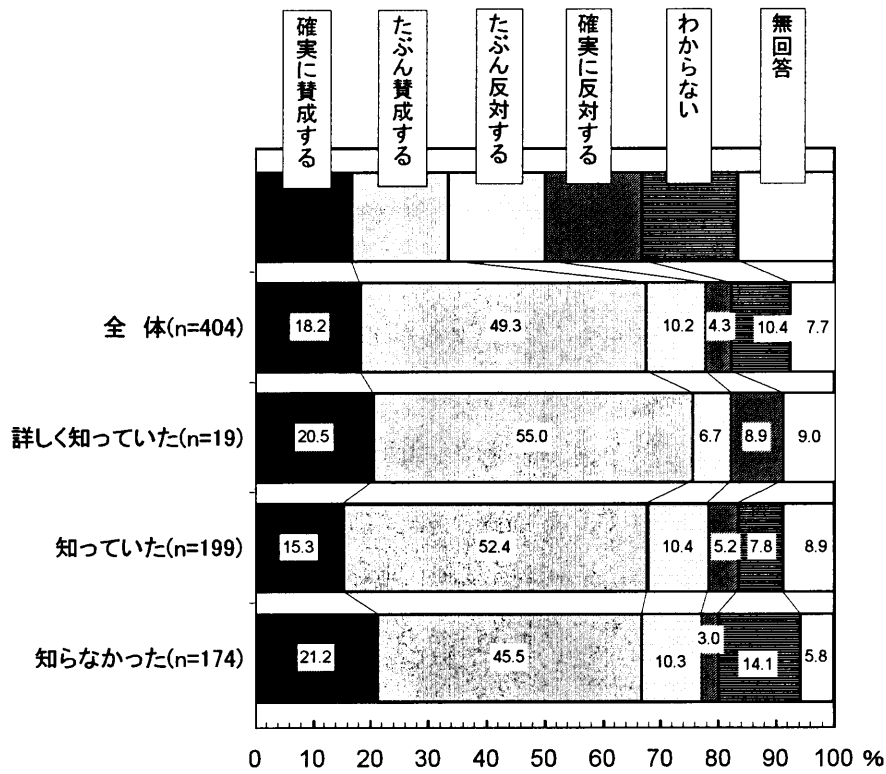
図表 2-2-2-9 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間 100 円を負担することの賛否/水源の森林づくり事業に対する考え方別)



【「相模川上流ダム湖の水質に対する認知度」別の状況】

相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別にみると、水質の状況を「詳しく知っていた」の回答者においては、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合が 75.5% と若干高くなっている。

図表 2-2-2-10 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
 (月間 100 円を負担することの賛否/相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別)

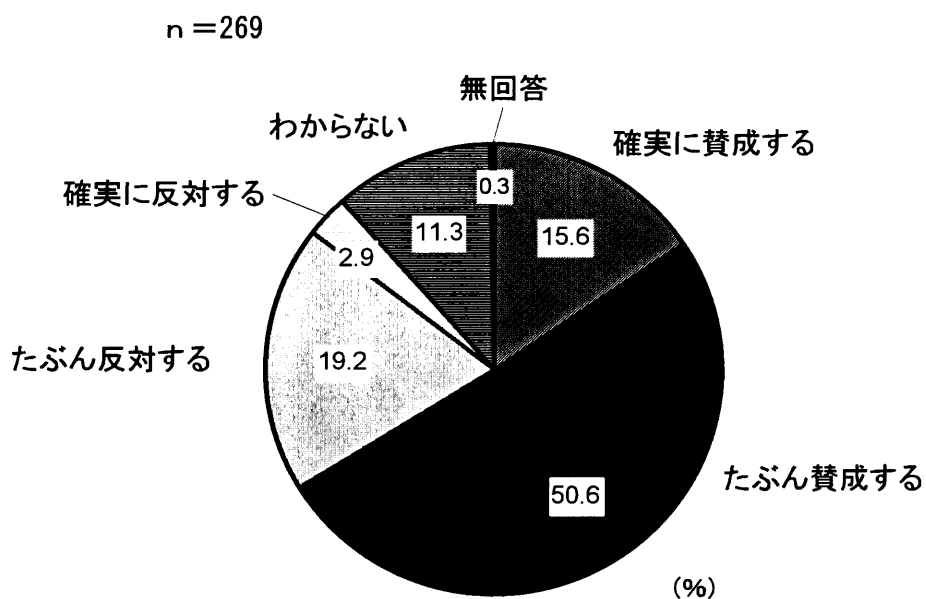


②月間 100 円の負担について尋ねた問 8 の「確実に賛成する」又は「たぶん賛成する」の回答者に対し、同様の整備条件のもと 1 世帯当たり月間 200 円（年間 2,400 円）を負担することの賛否を尋ねた。（問 9）

【全体の状況】

「確実に賛成する」（15.6%）と「たぶん賛成する」（50.6%）を合わせた賛成の回答は 66.2% である。

図表 2-2-2-11 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 200 円を負担することの賛否）

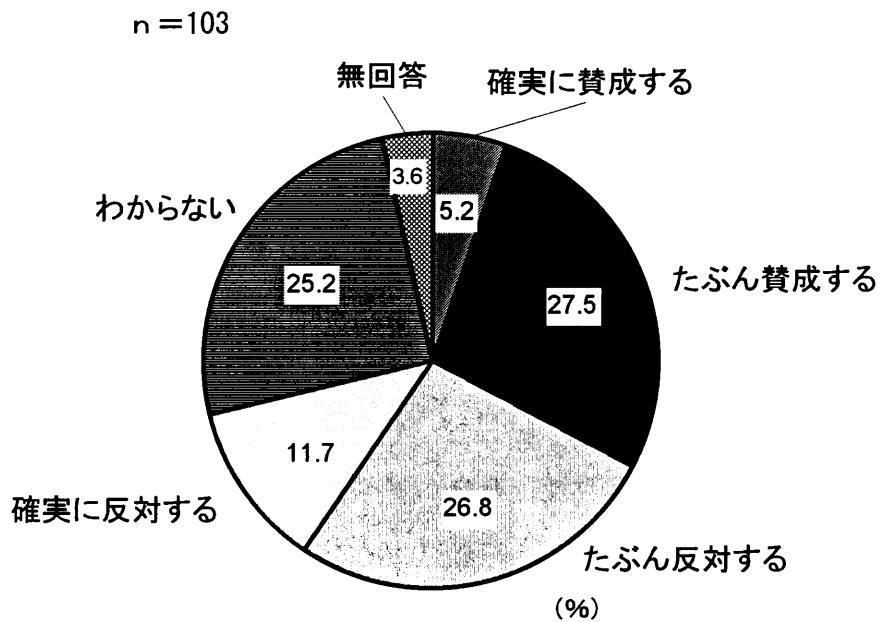


③月間 100 円の負担について尋ねた問 8 の「確実に反対する」、「たぶん反対する」又は「わからない」の回答者に対し、同様の整備条件のもと 1 世帯当たり月間 50 円（年間 600 円）を負担することの賛否を尋ねた。（問 10）

【全体の状況】

「確実に反対する」（11.7%）と「たぶん反対する」（26.8%）を合わせた反対の回答は 4 割弱であるが、負担額が 50 円になることにより、賛成すると回答した方が 3 割以上を占めている。

図表 2-2-2-12 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 50 円を負担することの賛否）



④月間 50 円の負担について尋ねた問 10 の「確実に反対する」、「たぶん反対する」又は「わからない」の回答者に対し、その理由を 2 つ以内回答可として尋ねた。(問 11)

【全体の状況】

「水源の保全には賛成だが、他の対策を取るべきだと思うから」(85 件中 35 件)が最も多く、次に「森林の荒廃や水質汚濁がそれほど進んでいるとは思わないから」(7 件)、「この政策の恩恵を受ける地域に住んでいないと思うから」(7 件)が続く。

※「その他」を除く。

図表 2-2-2-13 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担の反対理由
(月間 50 円の負担の反対理由)

水量および水質を保全するための負担額反対の理由(N=71)	回答数
水源の保全には賛成だが、他の対策を取るべきだと思うから	35
その他	32
この政策の恩恵を受ける地域に住んでいないと思うから	7
森林の荒廃や水質の汚濁がそれほど進んでいるとは思わないから	7
提示された負担額が高いから。もっと低い金額であれば賛成する	4
合計	85

森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額と反対理由

〔問8～問11〕

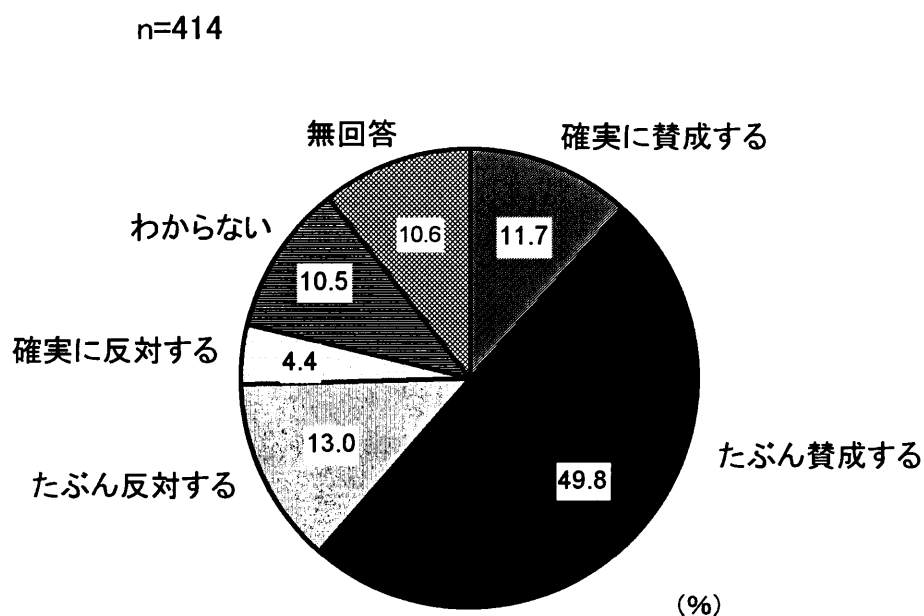
パターン3

①年間の森林保全面積約1,200ha（現行約800ha）、生活排水処理施設の年間整備率8%（現行約5%）に取り組むため、1世帯当たり月間200円（年間2,400円）を負担することの賛否を尋ねた。（問8）

【全体の状況】

「確実に賛成する」（11.7%）と「たぶん賛成する」（49.8%）を合わせた賛成の回答は6割を占める。一方、反対の回答は17.4%である。

図表 2-2-3-1 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間200円を負担することの賛否）



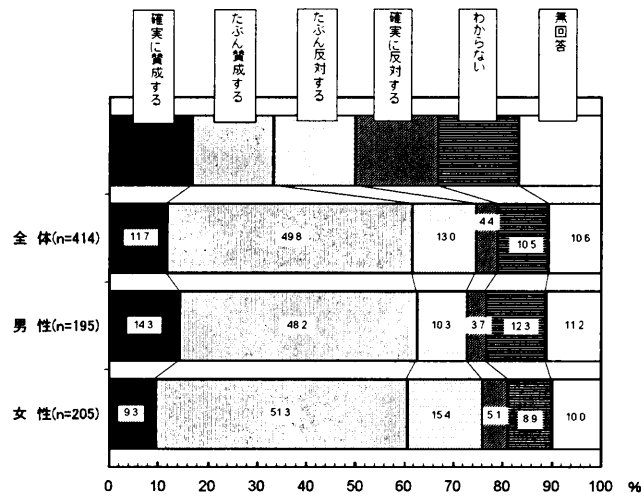
【性・年代別の状況】

性別の比較でみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、男性（62.5%）が女性（60.6%）を1.9ポイント上回る。

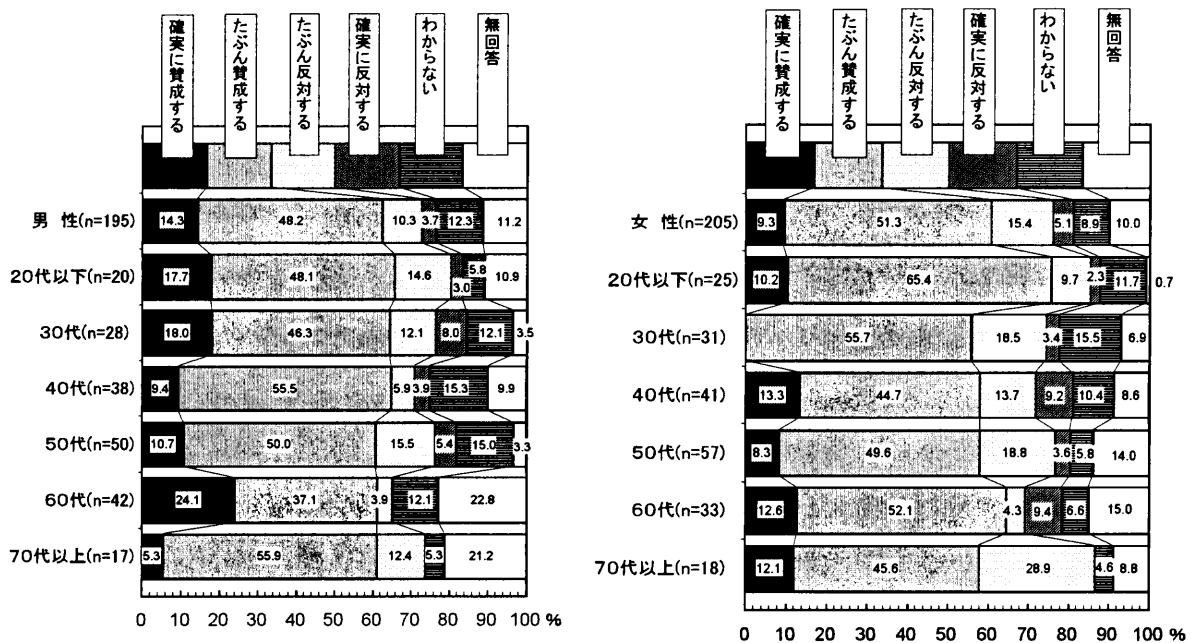
性・年代別にみると、男性はすべての年代ともほぼ同比率で賛成意見が多い。一方女性では20代以下（75.6%）、60代（64.7%）で賛成の割合が高い。

「たぶん反対する」と「確実に反対する」を合わせた反対意見が最も多かったのは70代の女性（33.5%）である。

図表 2-2-3-2 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間 200 円を負担することの賛否/性別)



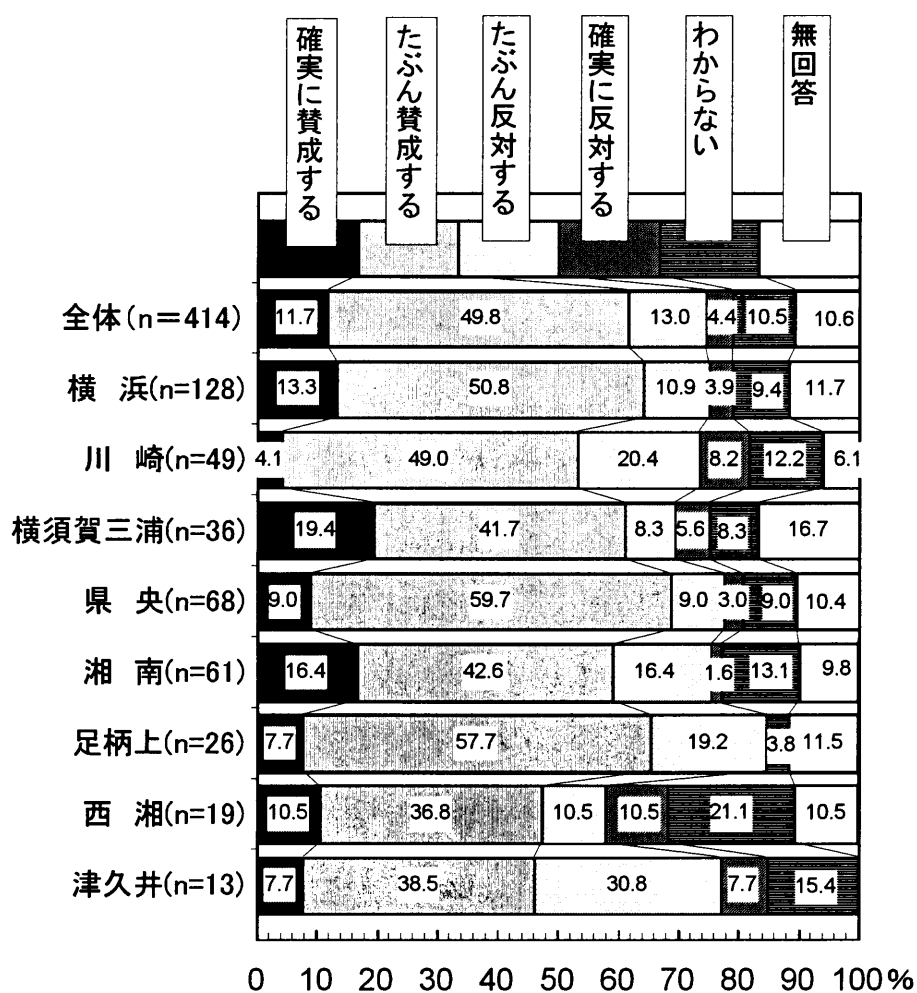
図表 2-2-3-3 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間 50 円を負担することの賛否/性・年代別)



【地域別の状況】

地域別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、県央（68.7%）と足柄上（65.4%）で高く、津久井（46.2%）で最も低い。

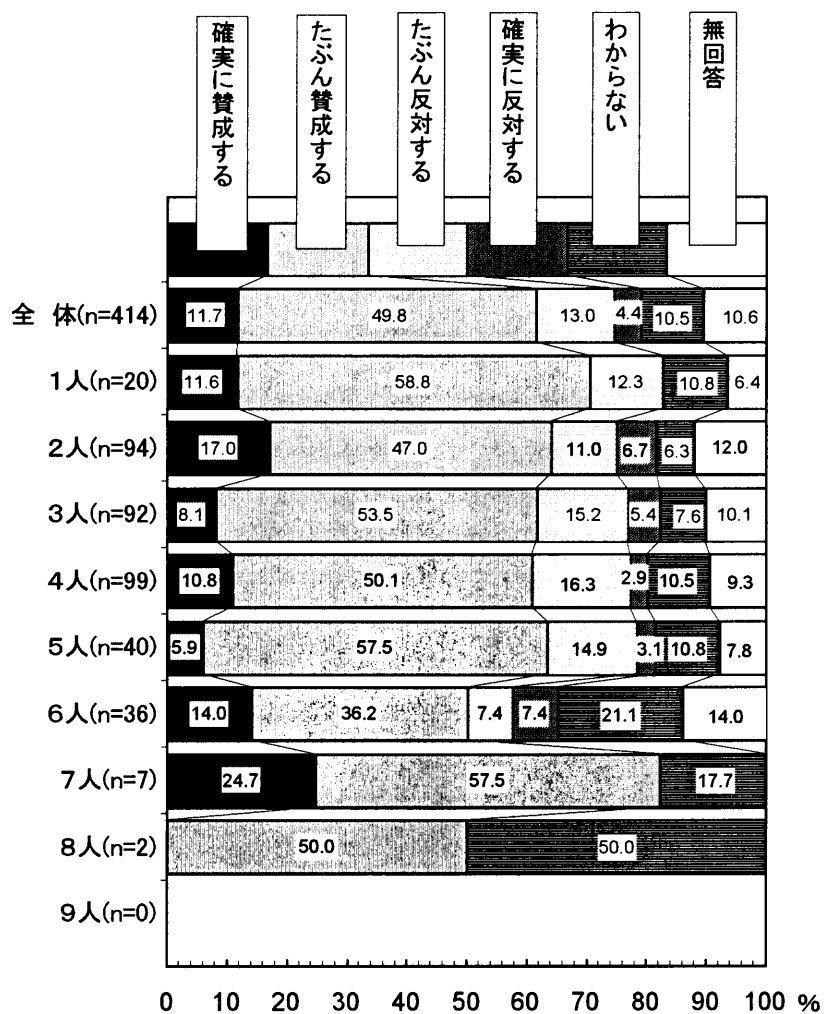
図表 2-2-3-4 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 200 円を負担することの賛否／地域別）



【世帯員数別の状況】

世帯員数別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合が比較的高いのは、7人家族の世帯（82.2%）であり、最も低いのは6人家族の世帯（50.2%）である。

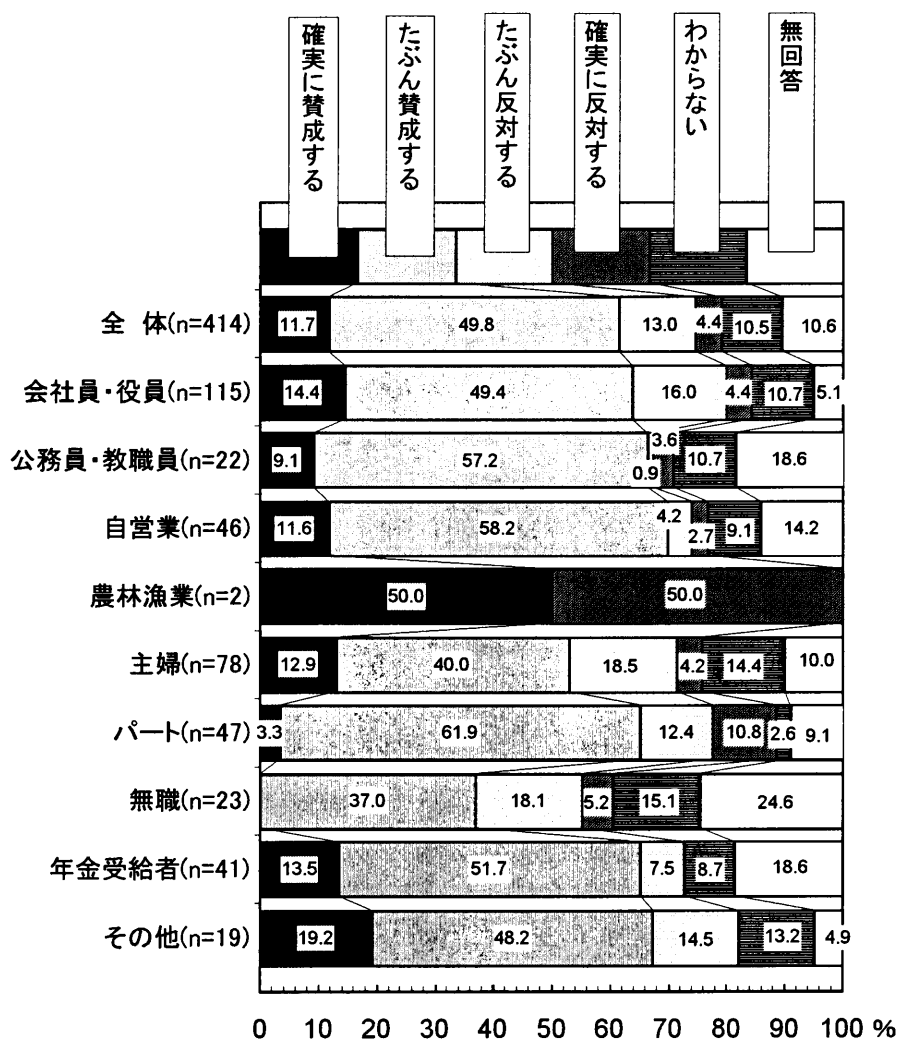
図表 2-2-3-5 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 200 円を負担することの賛否／世帯員数別）



【職業別の状況】

職業別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、自営業（69.8%）で特に高い。無職や農林漁業に次いで、賛成の割合が低いのは主婦（52.9%）である。

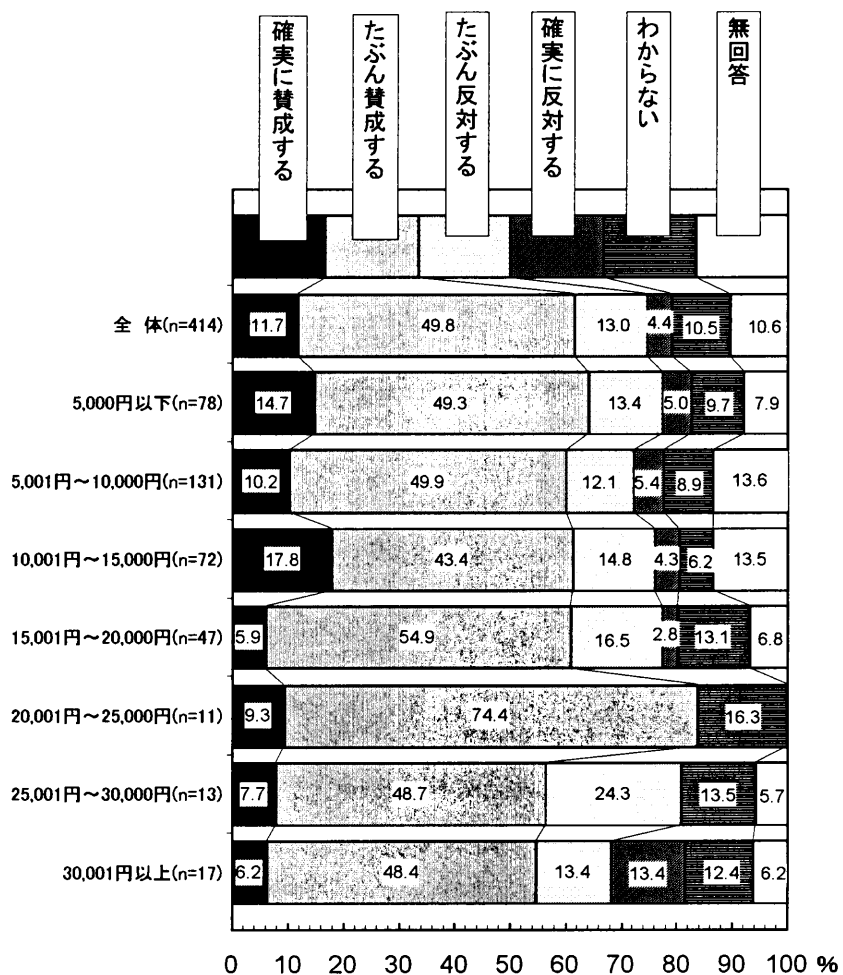
図表 2-2-3-6 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 200 円を負担することの賛否／職業別）



【水道料金別の状況】

水道料金別（2ヶ月）にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、20,001～25,000円の世帯（83.7%）に高くみられる。

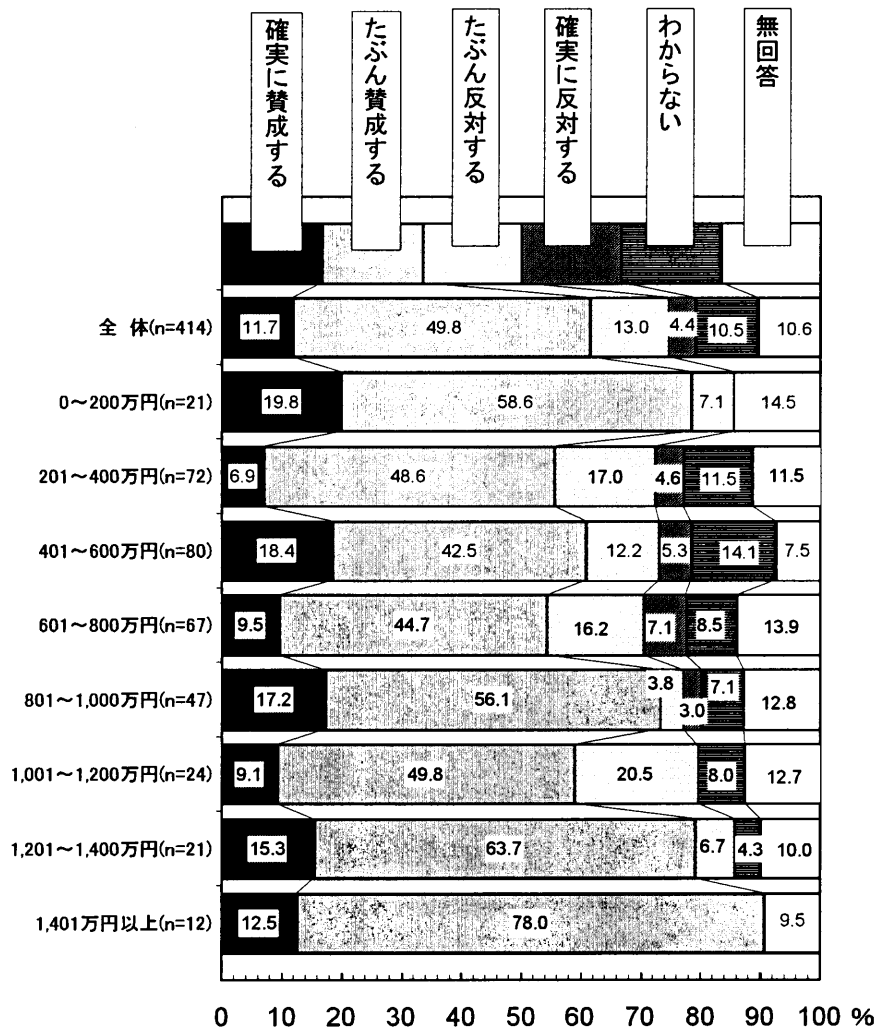
図表 2-2-3-7 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間200円を負担することの賛否／水道料金別）



【世帯年収別の状況】

世帯年収別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、年収 1,201～1,400 万円（79.0%）、200 万円以下（78.4%）などで高くなっている。

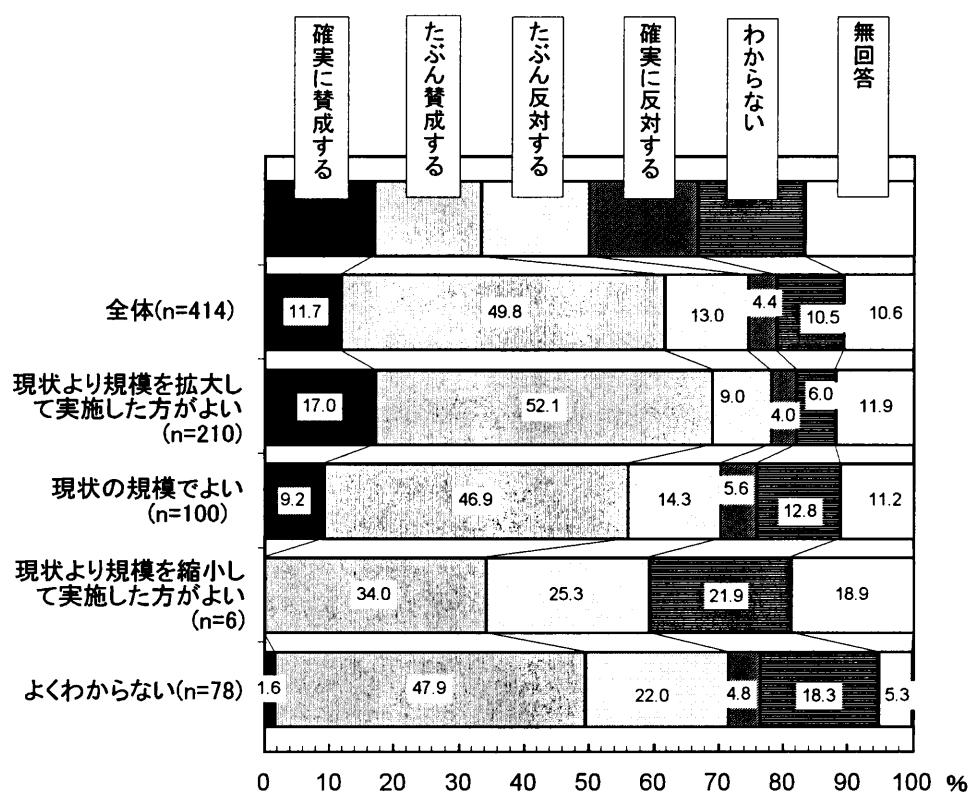
図表 2-2-3-8 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 200 円を負担することの賛否／世帯年収別）



【「水源の森林づくり事業に対する考え方」別の状況】

水源の森林づくり事業に対する考え方別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、水源の森林づくり事業を「現状より規模を拡大して実施した方がよい」の回答者（69.1%）で高くなっている。

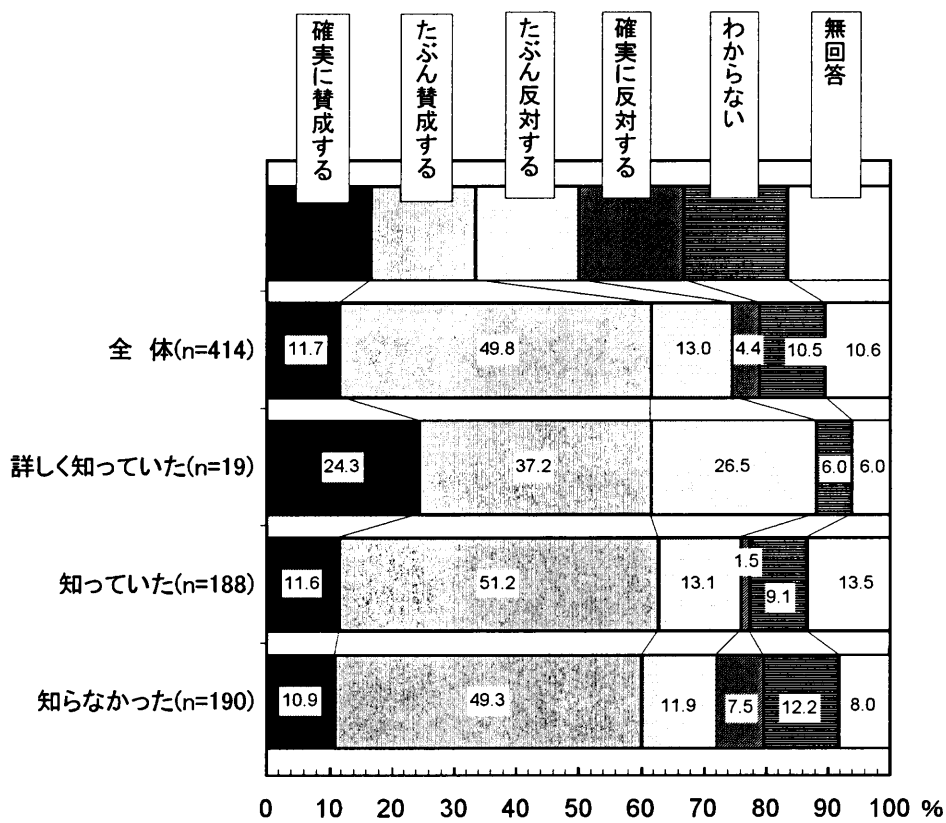
図表 2-2-3-9 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
 （月間 200 円を負担することの賛否／水源の森林づくり事業に対する考え方別）



【「相模川上流ダム湖の水質に対する認知度」別の状況】

相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別にみると、「詳しく知っていた」回答者で「確実に賛成する」の割合（24.3%）がかなり高くなっている。

図表 2-2-3-10 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
 (月間 200 円を負担することの賛否/相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別)

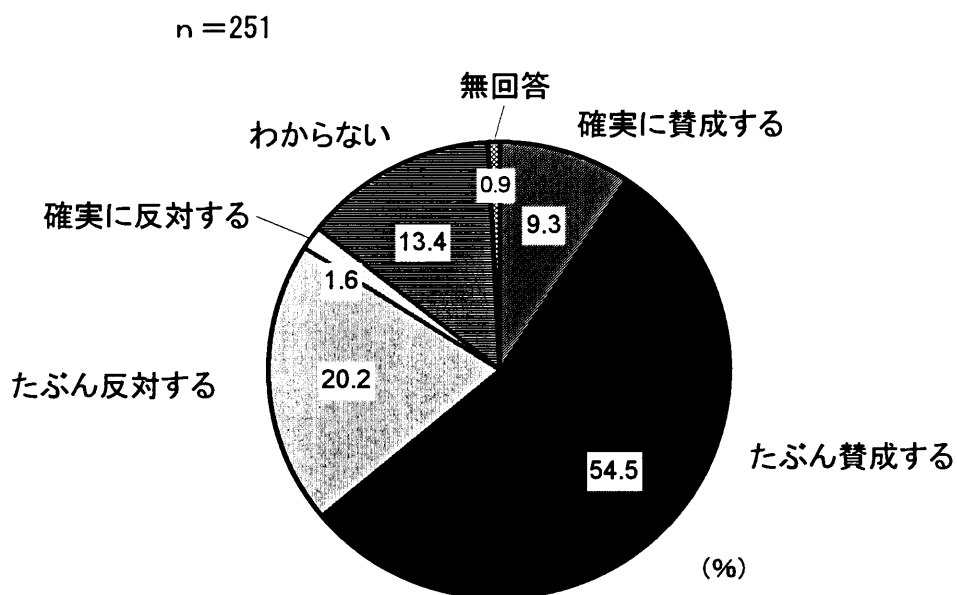


②月間 200 円の負担について尋ねた問 8 の「確実に賛成する」又は「たぶん賛成する」の回答者に対し、同様の整備条件のもと 1 世帯当たり月間 300 円（年間 3,600 円）を負担することの賛否を尋ねた。（問 9）

【全体の状況】

「確実に賛成する」（9.3%）と「たぶん賛成する」（54.5%）を合わせた賛成の回答は 6 割を超える。

図表 2-2-3-11 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 300 円を負担することの賛否）

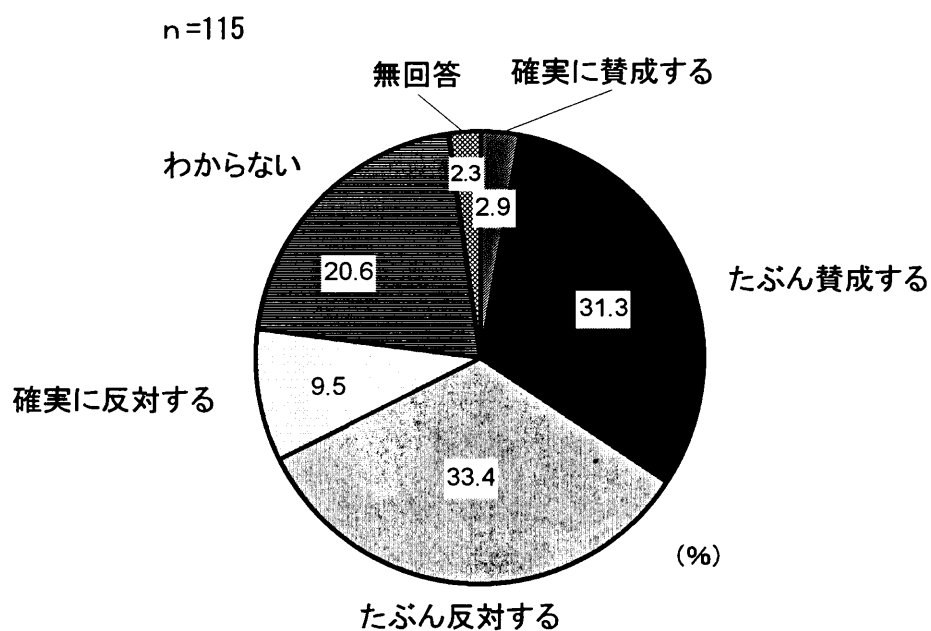


③月間 200 円の負担について尋ねた問 8 の「確実に反対する」、「たぶん反対する」又は「わからない」の回答者に対し、同様の整備条件のもと 1 世帯当たり月間 100 円（年間 1,200 円）を負担することの賛否を尋ねた。（問 10）

【全体の状況】

「確実に反対する」（9.5%）と「たぶん反対する」（33.4%）を合わせた反対の回答は 4 割以上であるが、負担額が 100 円になることにより、賛成すると回答した方が 3 割を超える。

図表 2-2-3-12 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 100 円を負担することの賛否）



④月間 100 円の負担について尋ねた問 10 の「確実に反対する」、「たぶん反対する」又は「わからない」の回答者に対し、その理由を 2 つ以内回答可として尋ねた。(問 11)

【全体の状況】

「水源の保全には賛成だが、他の対策を取るべきだと思うから」(84 件中 41 件)が最も多く、次に「提示された負担額が高いから。もっと低い金額であれば賛成する」(7 件)が続く。

※「その他」を除く。

図表 2-2-3-13 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担の反対理由
(月間 100 円の負担の反対理由)

水量および水質を保全するための負担額反対の理由(N=72)	回答数
水源の保全には賛成だが、他の対策を取るべきだと思うから	41
その他	29
提示された負担額が高いから。もっと低い金額であれば賛成する	7
この政策の恩恵を受ける地域に住んでいないと思うから	4
森林の荒廃や水質の汚濁がそれほど進んでいるとは思わないから	3
合計	84

森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額と反対理由

〔問8～問11〕

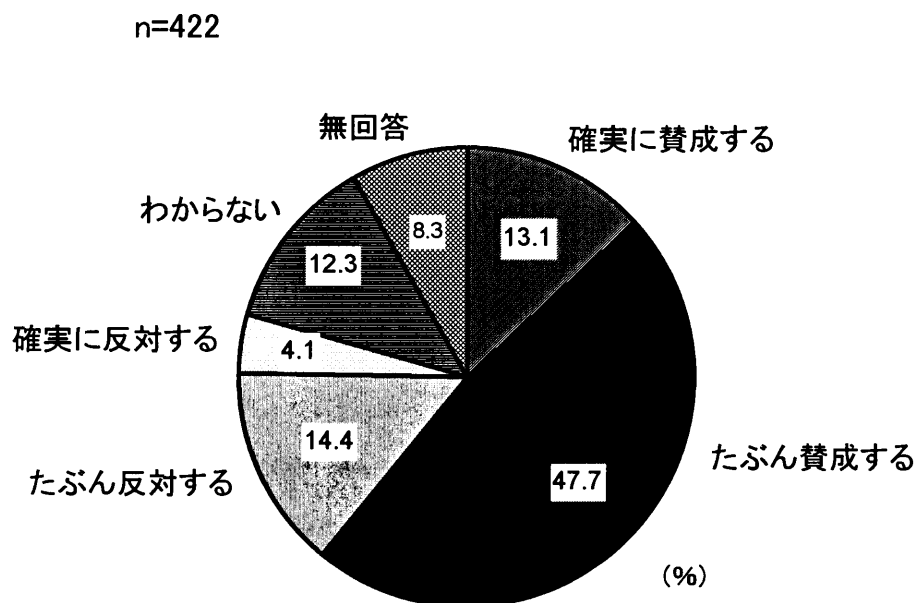
パターン4

①年間の森林保全面積約 1,200ha（現行約 800ha）、生活排水処理施設の年間整備率 8%（現行約 5%）に取り組むため、1世帯当たり月間 300 円（年間 3,600 円）を負担することの賛否を尋ねた。（問8）

【全体の状況】

「確実に賛成する」（13.1%）と「たぶん賛成する」（47.7%）を合わせた賛成の回答は6割を占める。一方、反対の回答は18.5%である。

図表 2-2-4-1 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 300 円を負担することの賛否）



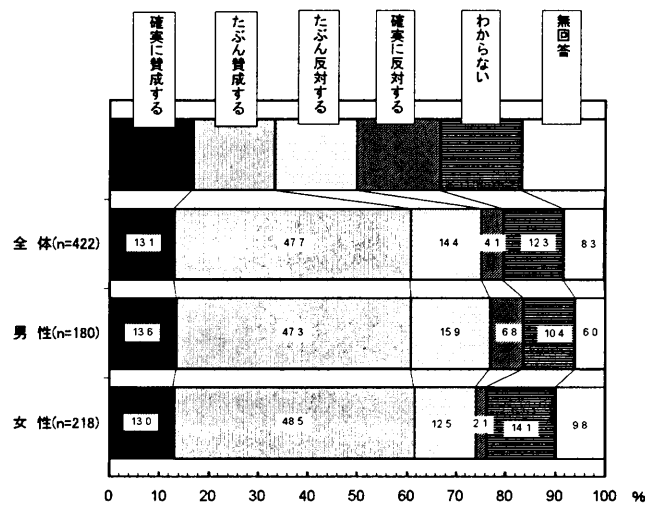
【性・年代別の状況】

性別の比較でみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、女性（61.5%）が男性（60.9%）をわずか0.6ポイント上回る。

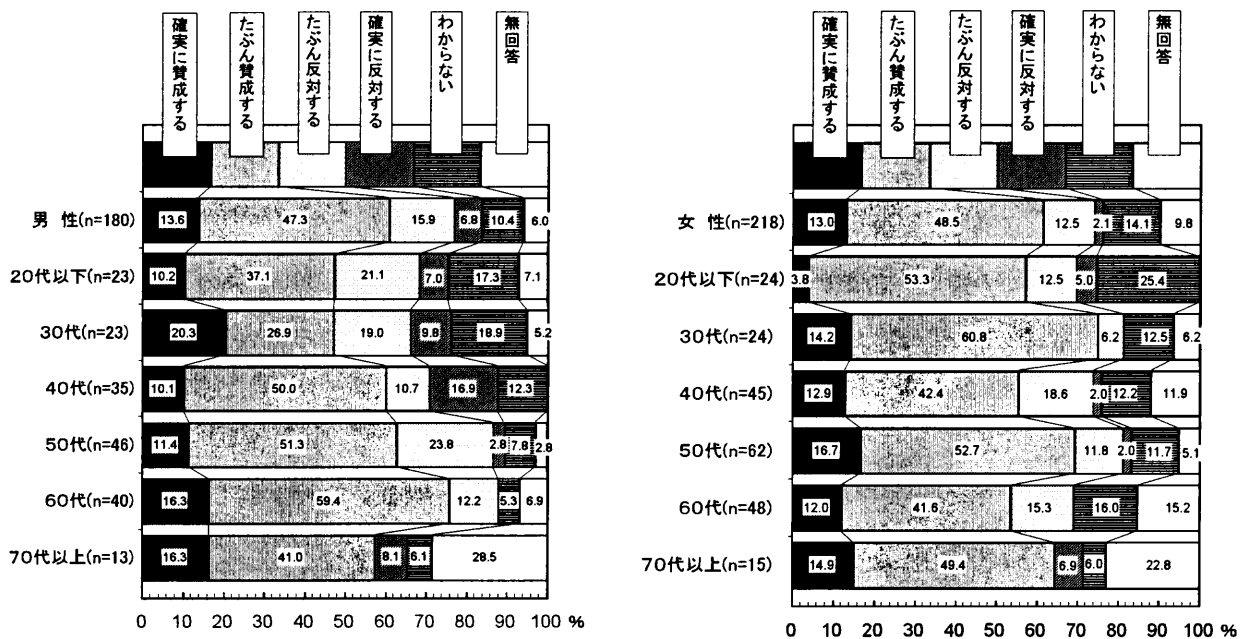
性・年代別にみると、男性で、賛成の割合は60代（75.7%）で特に高く、女性では30代（75.0%）、50代（69.4%）で高いことがわかる。

「たぶん反対する」と「確実に反対する」を合わせた反対意見が最も多かったのは60代の女性（31.3%）である。

図表 2-2-4-2 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間300円を負担することの賛否/性別)



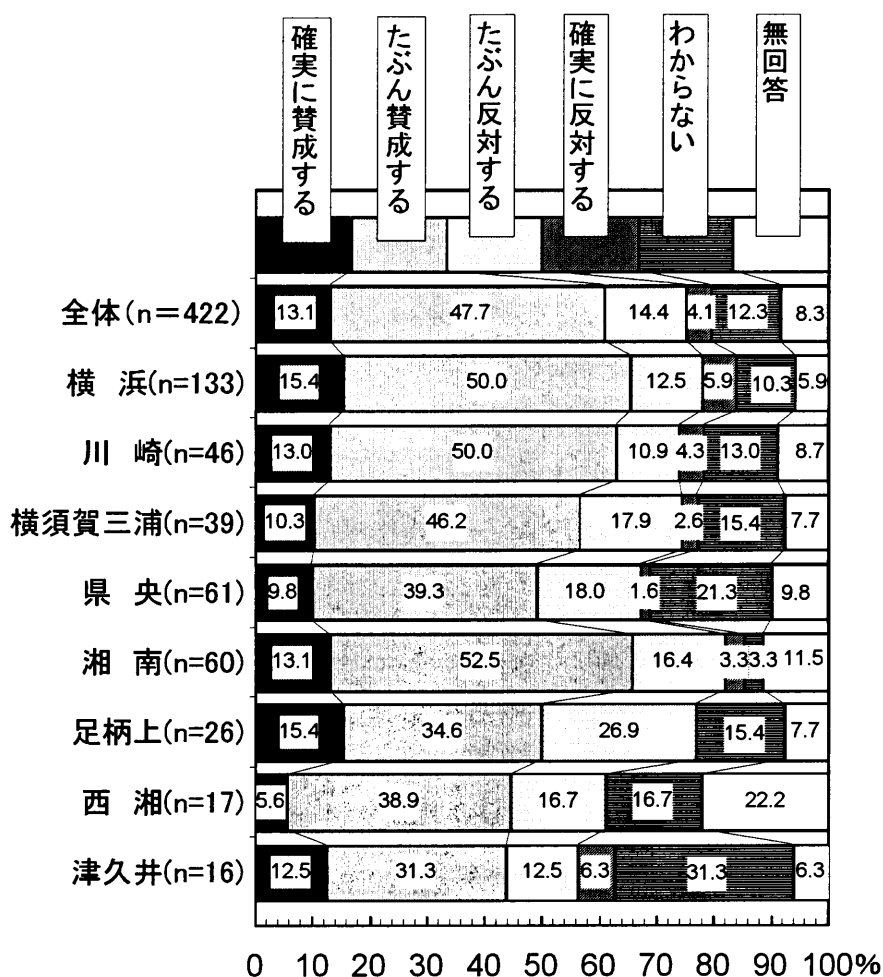
図表 2-2-4-3 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間300円を負担することの賛否/性・年代別)



【地域別の状況】

地域別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、湘南（65.6%）で高く、西湘（44.5%）、津久井（43.8%）で低い傾向がみられる。

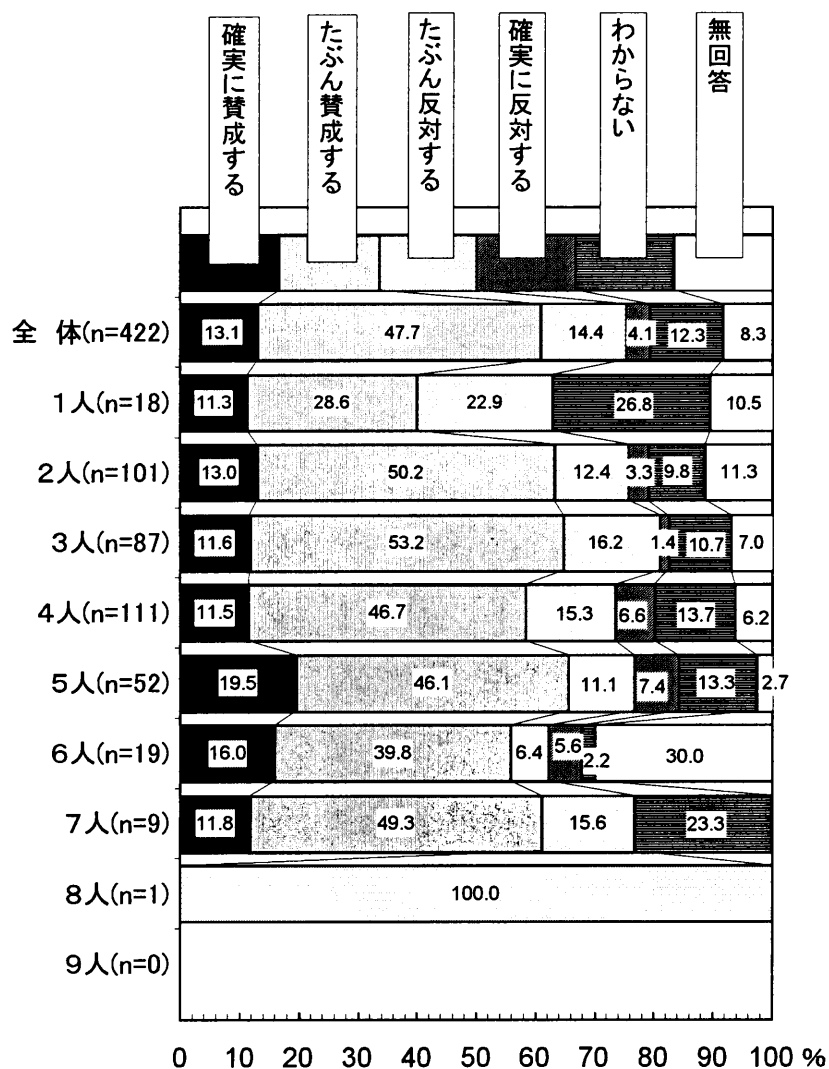
図表 2-2-4-4 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 300 円を負担することの賛否／地域別）



【世帯員数別の状況】

世帯員数別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合が最も高いのは、5人家族の世帯（65.6%）である。

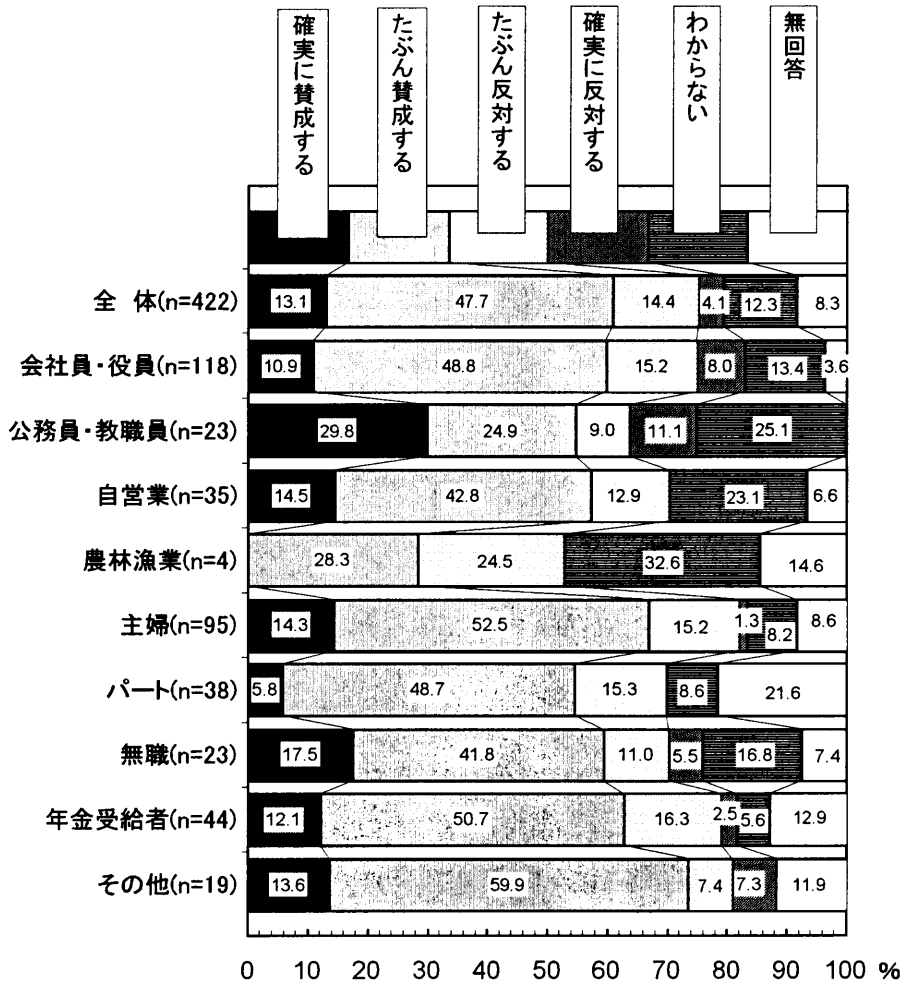
図表 2-2-4-5 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 300 円を負担することの賛否／世帯員数別）



【職業別の状況】

職業別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、主婦(66.8%)で高い。公務員・教職員(54.7%)、パート(54.5%)などでは低い傾向がみられる。

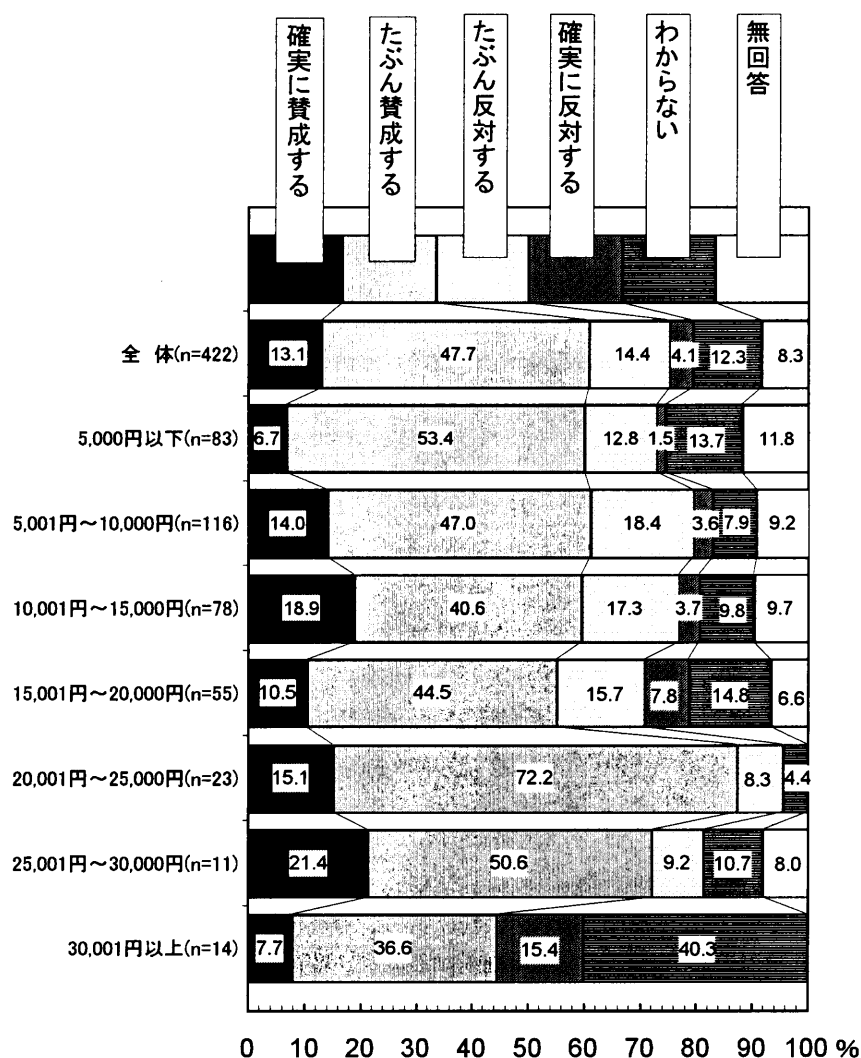
図表 2-2-4-6 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間 300 円を負担することの賛否/職業別)



【水道料金別の状況】

水道料金別（2ヶ月）にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、20,001～25,000円の世帯（87.3%）で高い傾向がみられる。

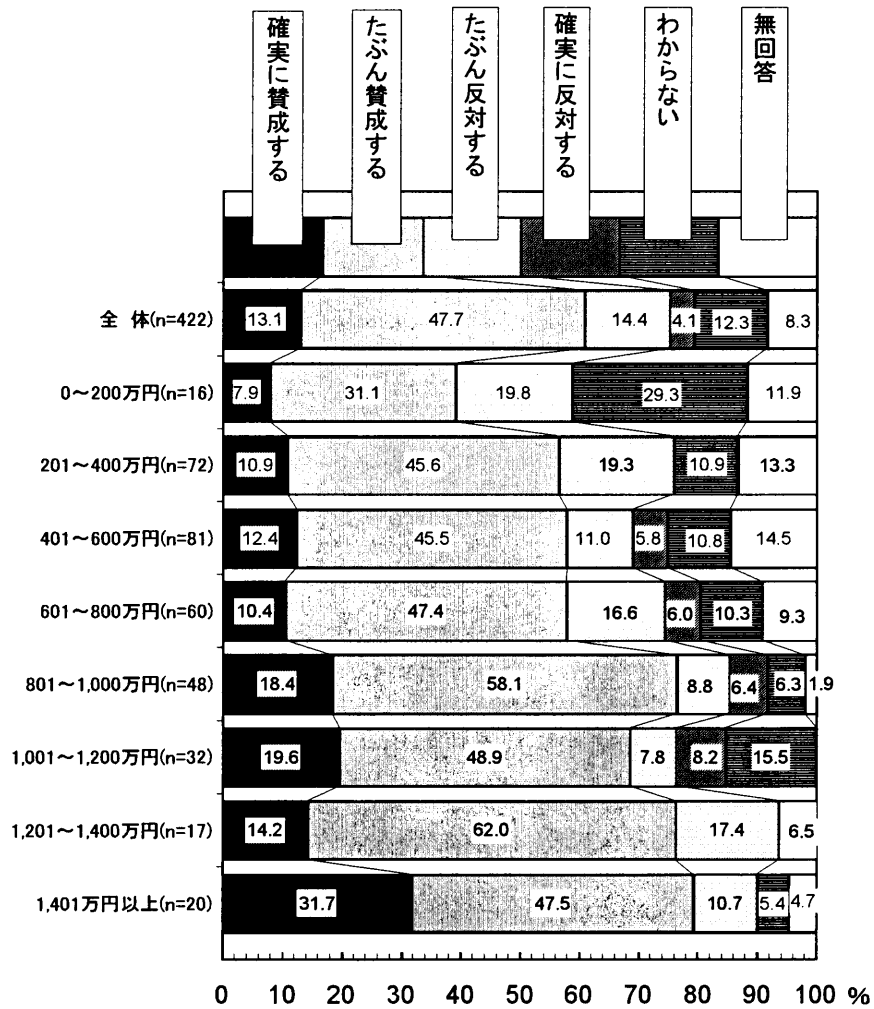
図表 2-2-4-7 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間300円を負担することの賛否／水道料金別）



【世帯年収別の状況】

世帯年収別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、年収 801 万円以上の世帯において高い傾向がみられる。

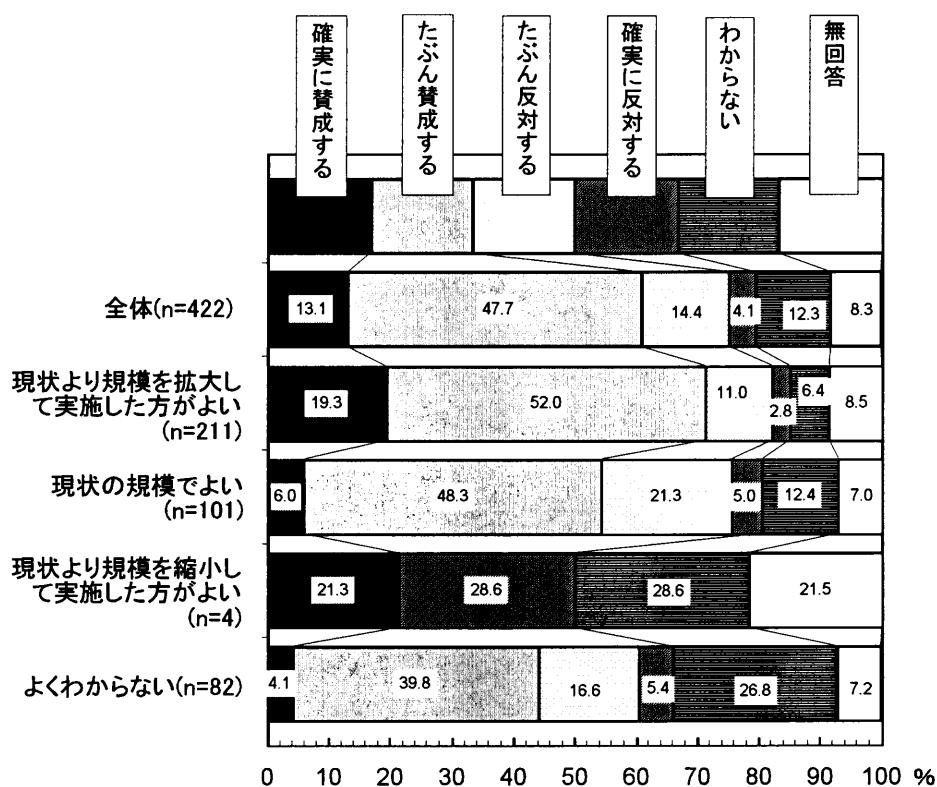
図表 2-2-4-8 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間 300 円を負担することの賛否/世帯年収別)



【「水源の森林づくり事業に対する考え方」別の状況】

水源の森林づくり事業に対する考え方別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、水源の森林づくり事業を「現状より規模を拡大して実施した方がよい」の回答者（71.3%）で高くなっている。

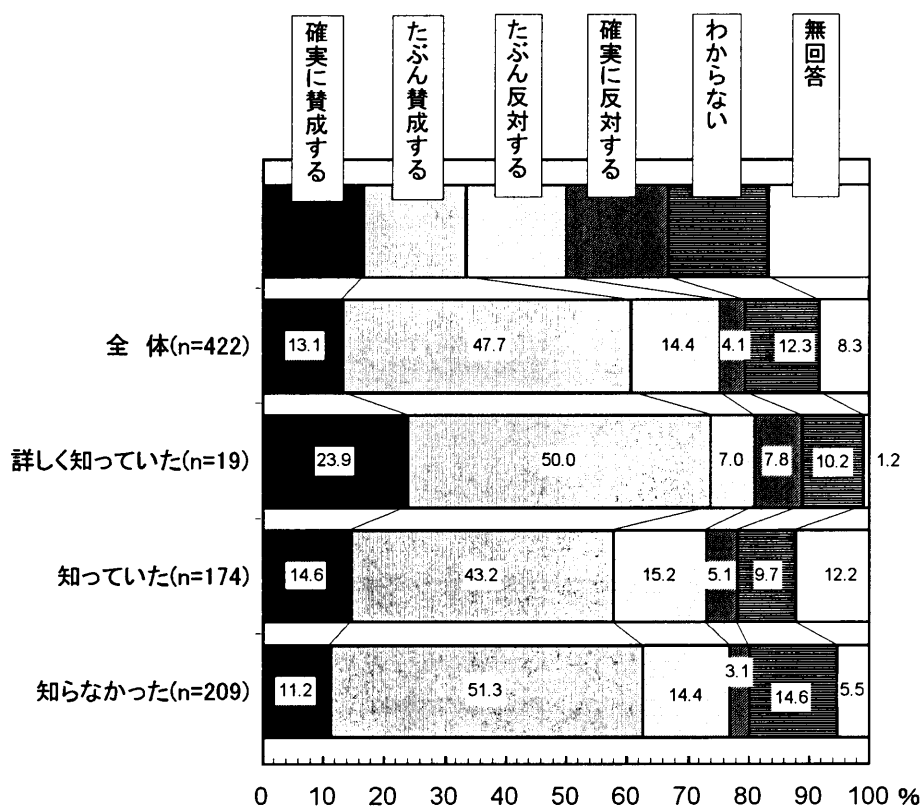
図表 2-2-4-9 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
 (月間 300 円を負担することの賛否/水源の森林づくり事業に対する考え方別)



【「相模川上流ダム湖の水質に対する認知度」別の状況】

相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別にみると、「詳しく知っていた」回答者において、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合が高くなっている（73.9%）。

図表 2-2-4-10 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
 (月間 300 円を負担することの賛否/相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別)

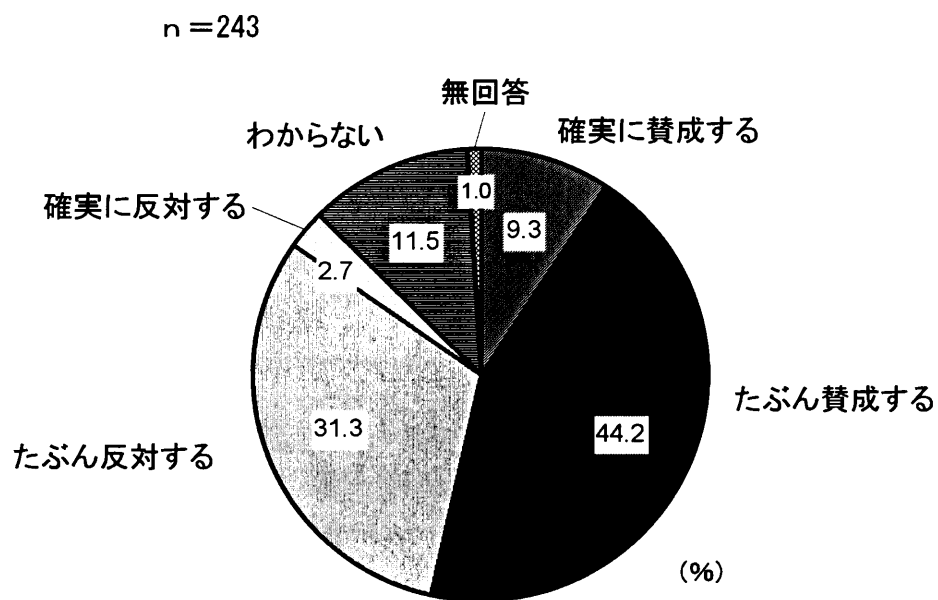


②月間 300 円の負担について尋ねた問 8 の「確実に賛成する」又は「たぶん賛成する」の回答者に対し、同様の整備条件のもと 1 世帯当たり月間 500 円（年間 6,000 円）を負担することの賛否を尋ねた。（問 9）

【全体の結果】

「確実に賛成する」（9.3%）と「たぶん賛成する」（44.2%）を合わせた賛成の回答は 5 割を超える。

図表 2-2-4-11 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 500 円を負担することの賛否）

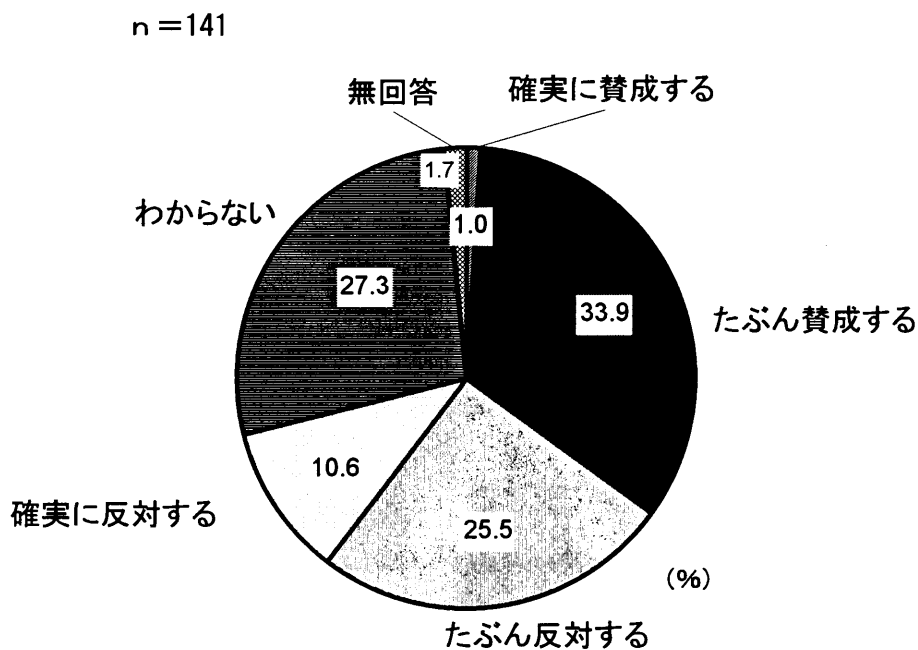


③月間 300 円の負担について尋ねた問 8 の「確実に反対する」、「たぶん反対する」又は「わからない」の回答者に対し、同様の整備条件のもと 1 世帯当たり月間 200 円（年間 2,400 円）を負担することの賛否を尋ねた。（問 10）

【全体の状況】

「確実に反対する」（10.6%）と「たぶん反対する」（25.5%）を合わせた反対の回答は 36.1% であるが、負担額が 200 円になることにより、賛成すると回答した人が 34.9% である。

図表 2-2-4-12 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 200 円を負担することの賛否）



④月間 200 円の負担について尋ねた問 10 の「確実に反対する」、「たぶん反対する」又は「わからない」の回答者に対し、その理由を 2 つ以内回答可として尋ねた。(問 11)

【全体の状況】

「水源の保全には賛成だが、他の対策を取るべきだと思うから」(113 件中 46 件) が最も多く、次に「提示された負担額が高いから。もっと低い金額であれば賛成する」(16 件) が続く。

※「その他」を除く。

図表 2-2-4-13 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担の反対理由
(月間 200 円の負担の反対理由)

水量および水質を保全するための負担額反対の理由(N=94)	回答数
水源の保全には賛成だが、他の対策を取るべきだと思うから	46
その他	30
提示された負担額が高いから。もっと低い金額であれば賛成する	16
この政策の恩恵を受ける地域に住んでいないと思うから	13
森林の荒廃や水質の汚濁がそれほど進んでいるとは思わないから	8
合計	113

森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額と反対理由

〔問8～問11〕

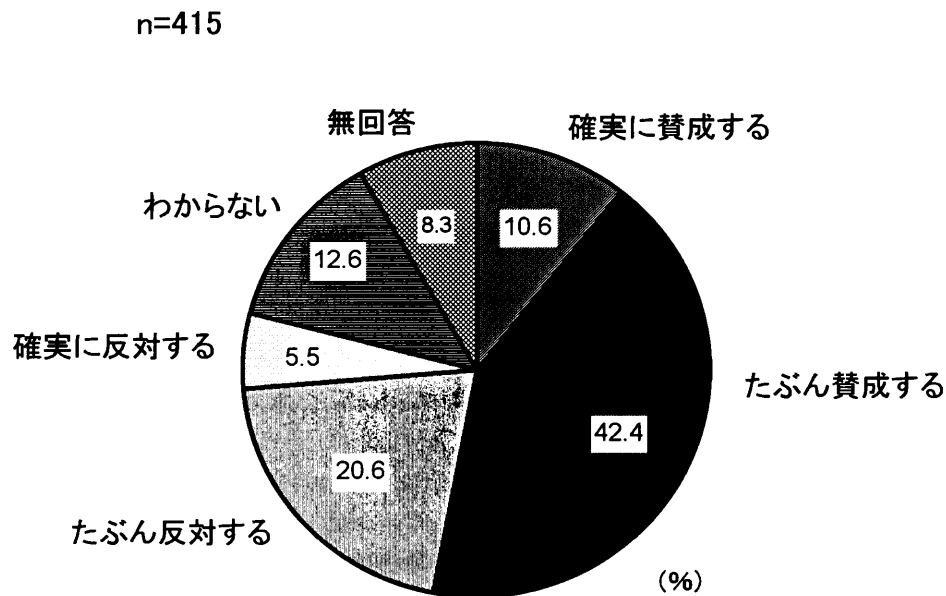
パターン5

①年間の森林保全面積約 1,200ha（現行約 800ha）、生活排水処理施設の年間整備率 8%（現行約 5%）に取り組むため、1世帯当たり月間 500 円（年間 6,000 円）を負担することの賛否を尋ねた。（問8）

【全体の状況】

「確実に賛成する」（10.6%）と「たぶん賛成する」（42.4%）を合わせた賛成の回答は 5 割を超える。一方、反対の回答は 26.1%である。

図表 2-2-5-1 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 500 円を負担することの賛否）



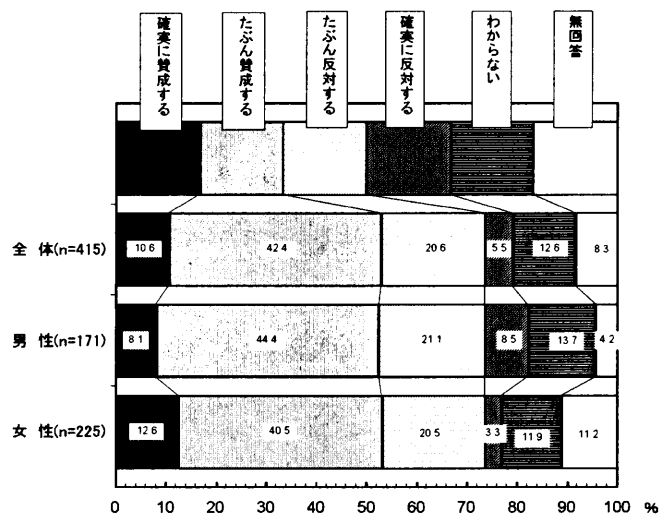
【性・年代別の状況】

性別の比較でみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、女性（53.1%）が男性（52.5%）をわずか0.6ポイント上回る。

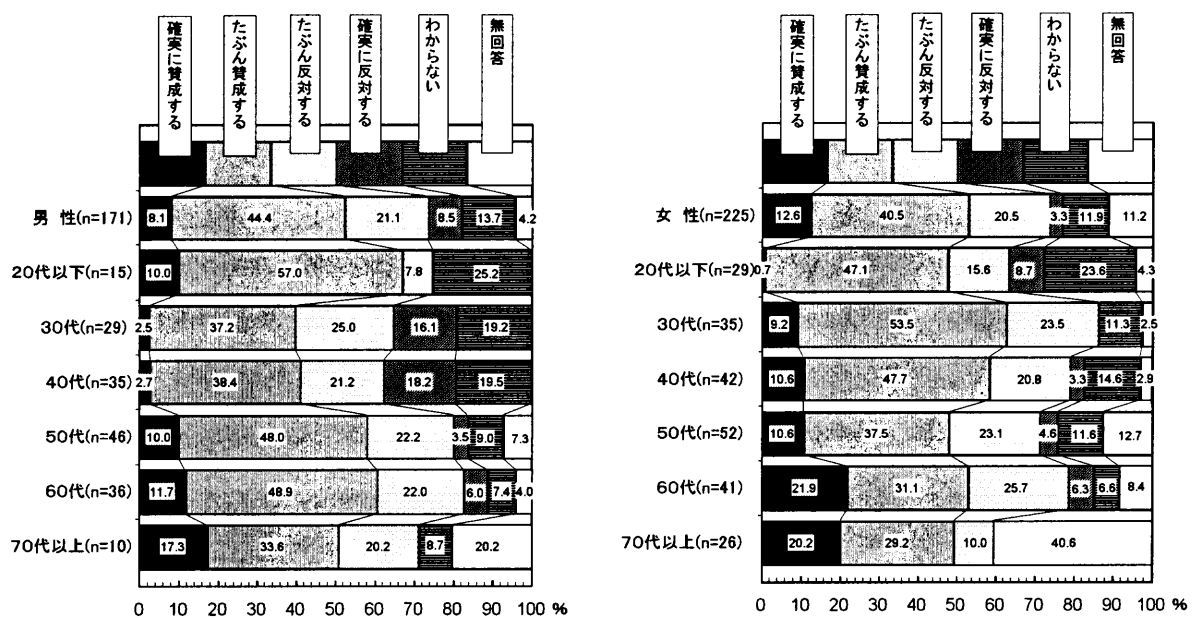
性・年代別にみると、男性では、賛成の割合は20代以下（67.0%）で最も高く、女性では30代（62.7%）で賛成の割合は高い。

「たぶん反対する」と「確実に反対する」を合わせた反対意見が最も多かったのは30代の男性（41.1%）である。

図表 2-2-5-2 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間500円を負担することの賛否/性別)



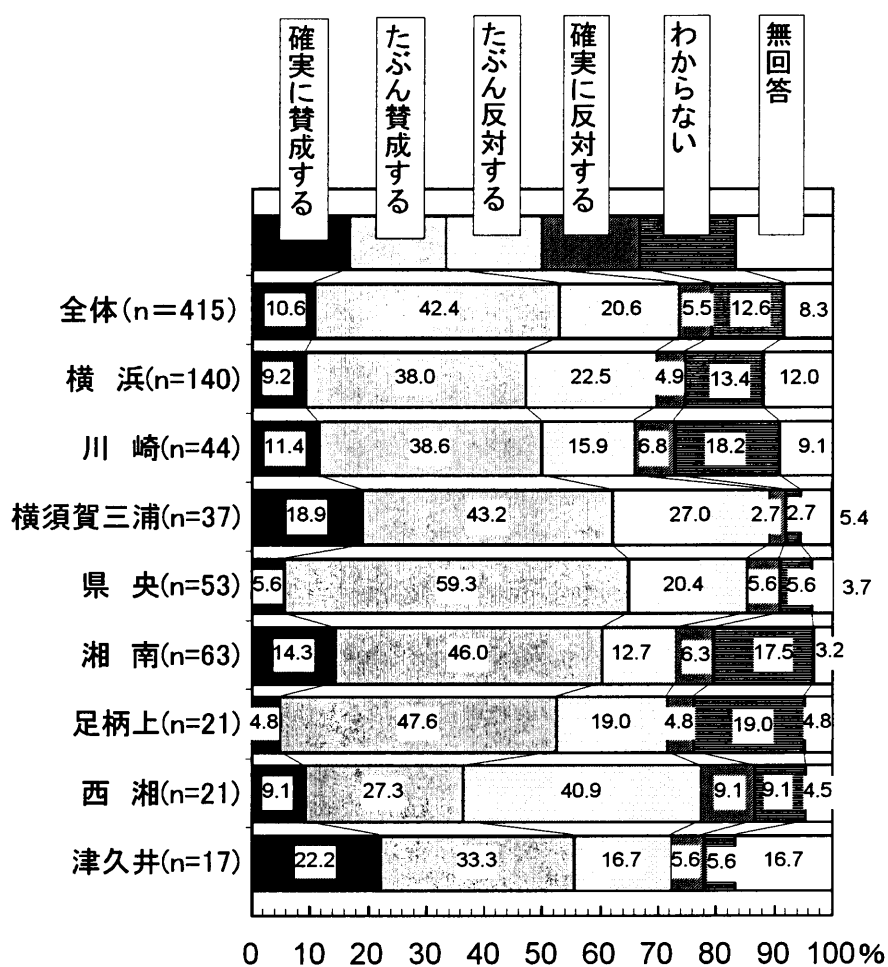
図表 2-2-5-3 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間50円を負担することの賛否/性・年代別)



【地域別の状況】

地域別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、県央（64.9%）、横須賀三浦（62.1%）で特に高く、西湘（36.4%）で最も低いことがわかる。

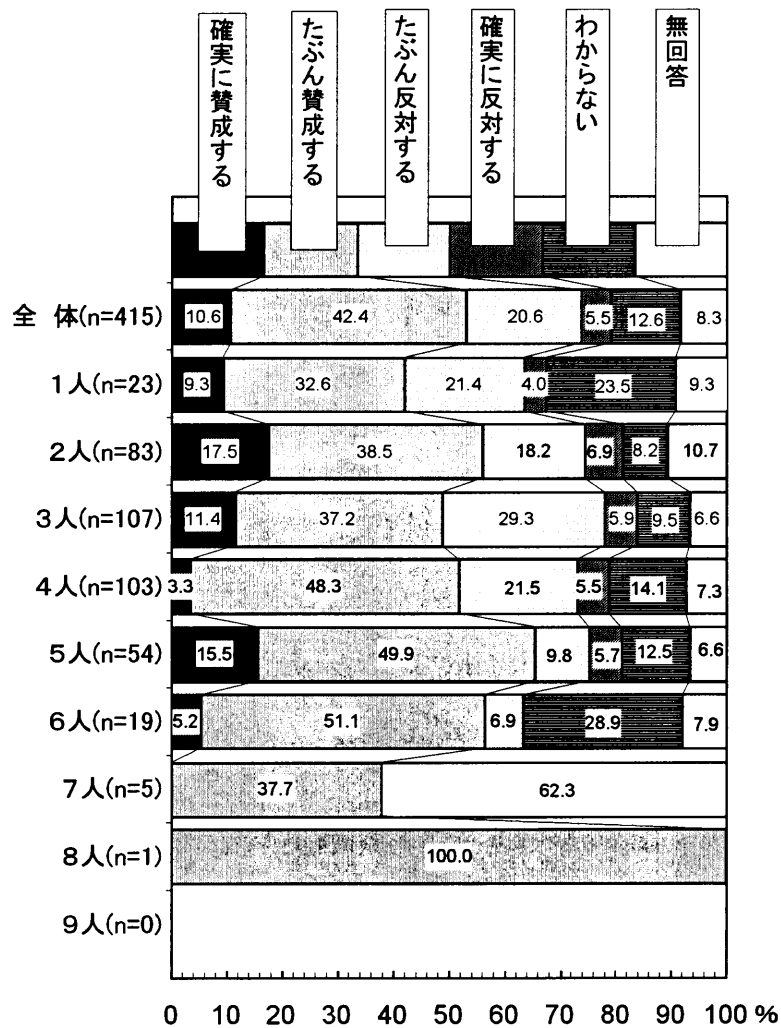
図表 2-2-5-4 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 500 円を負担することの賛否／地域別）



【世帯員数別の状況】

世帯員数別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合が高いのは、5人家族の世帯（65.4%）である。

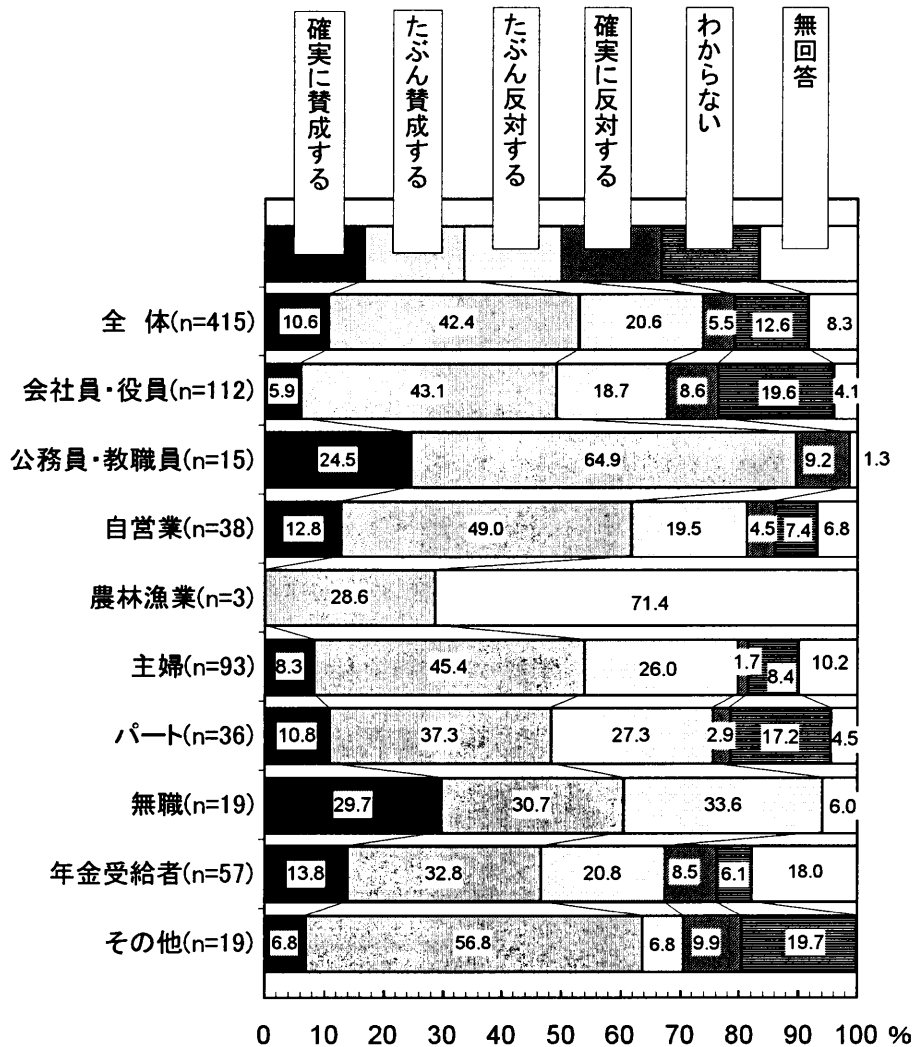
図表 2-2-5-5 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 500 円を負担することの賛否／世帯員数別）



【職業別の状況】

職業別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、公務員・教職員（89.4%）で高い比率を示している。最も低いのは、農林漁業を除くと、年金受給者（46.6%）である。

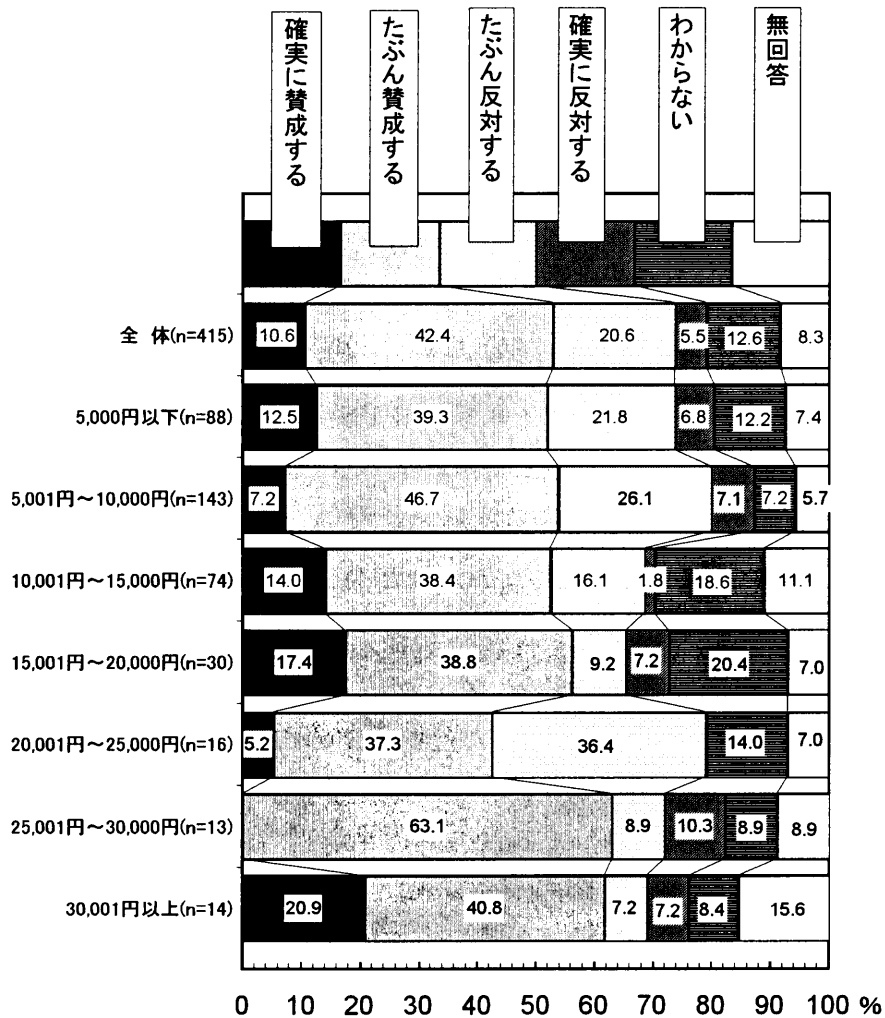
図表 2-2-5-6 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 500 円を負担することの賛否／職業別）



【水道料金別の状況】

水道料金別（2ヶ月）にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、25,001円以上の世帯でやや高くなっている。

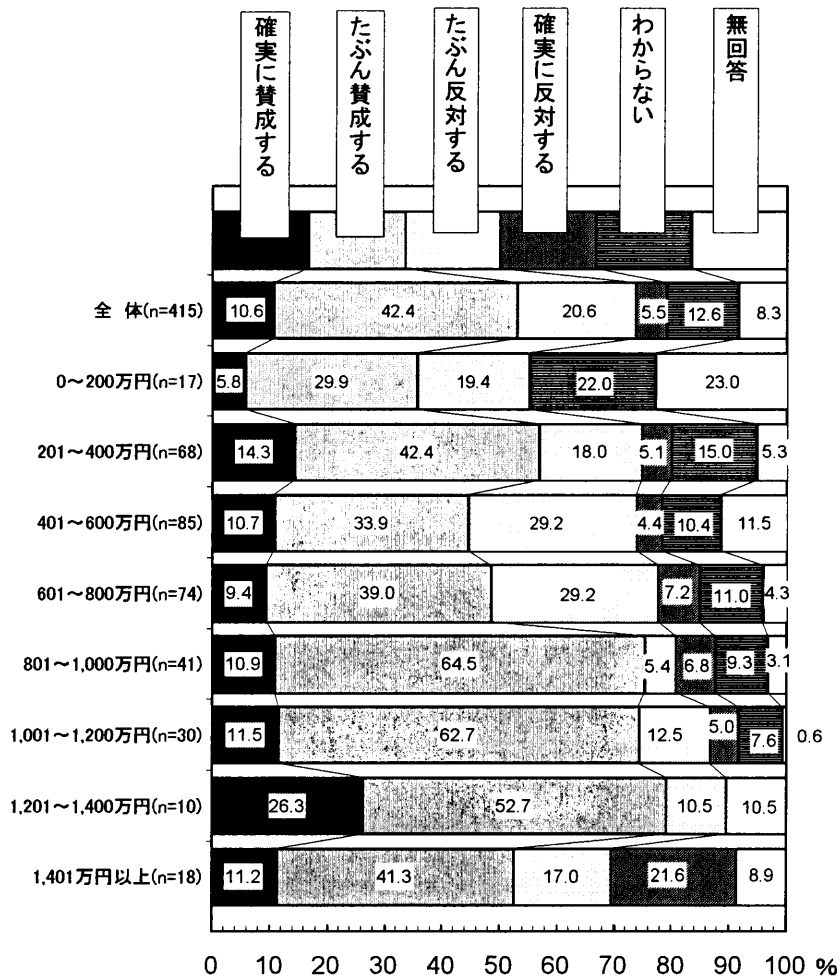
図表 2-2-5-7 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間500円を負担することの賛否／水道料金別）



【世帯年収別の状況】

世帯年収別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、年収 801～1,400 万円の世帯ではいずれも 7 割を超え高いことがわかる。200 万円以下の世帯（35.7%）で賛成の割合が低く、また 401～800 万円の世帯では反対の回答が 3 割を超えている。

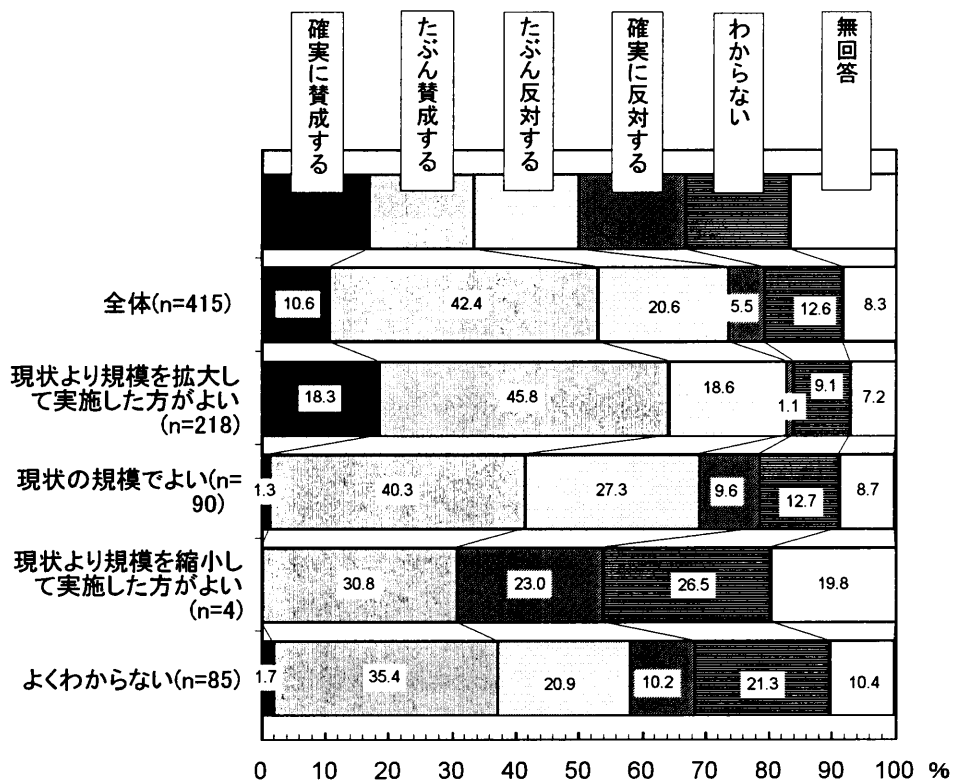
図表 2-2-5-8 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
(月間 500 円を負担することの賛否/世帯年収別)



【「水源の森林づくり事業に対する考え方」別の状況】

水源の森林づくり事業に対する考え方別にみると、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合は、水源の森林づくり事業を「現状より規模を拡大して実施した方がよい」の回答者では6割（64.1%）を超えて高い。

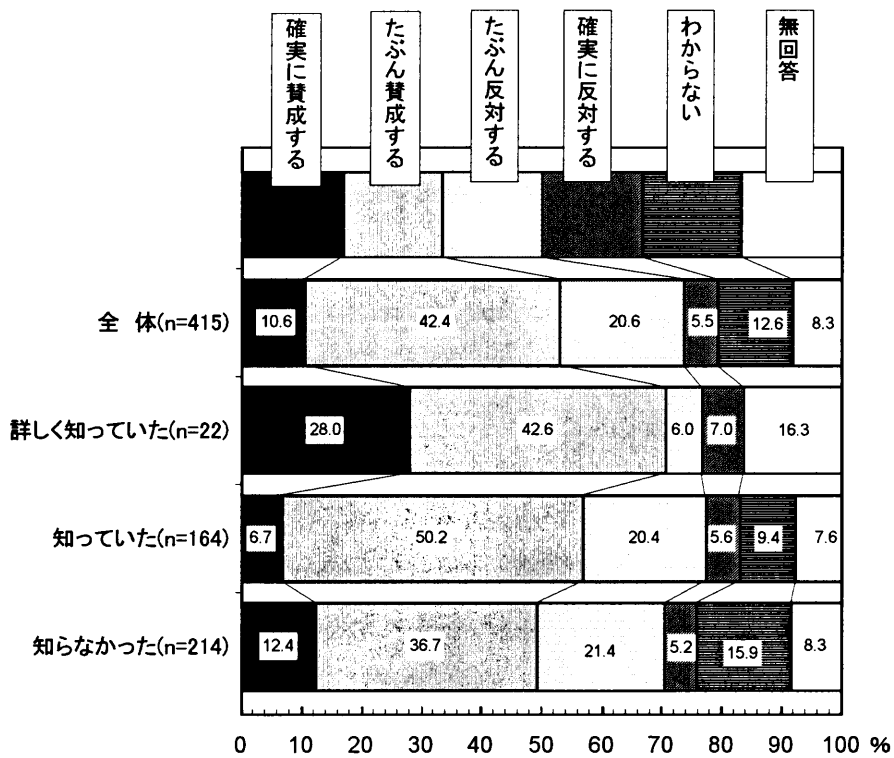
図表 2-2-5-9 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
 (月間500円を負担することの賛否/水源の森林づくり事業に対する考え方別)



【「相模川上流ダム湖の水質に対する認知度」別の状況】

相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別にみると、「詳しく知っていた」回答者において、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の割合が高くなっている（70.6%）。

図表 2-2-5-10 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
 （月間500円を負担することの賛否／相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別）

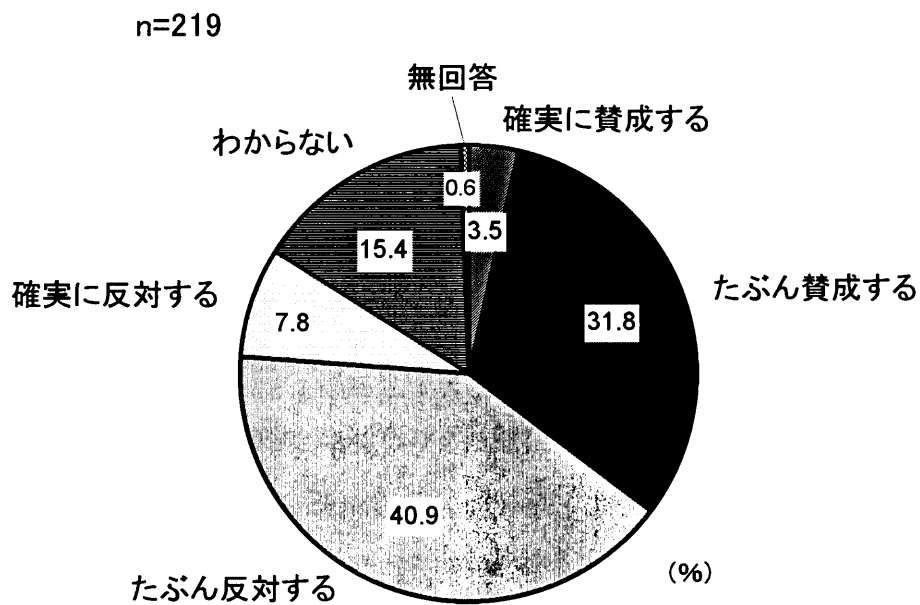


②月間 500 円の負担について尋ねた問 8 の「確実に賛成する」又は「たぶん賛成する」の回答者に対し、同様の整備条件のもと 1 世帯当たり月間 1,000 円（年間 12,000 円）を負担することの賛否を尋ねた。（問 9）

【全体の状況】

「確実に賛成する」（3.5%）と「たぶん賛成する」（31.8%）を合わせた賛成の回答は 35.3% である。

図表 2-2-5-11 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 1,000 円を負担することの賛否）

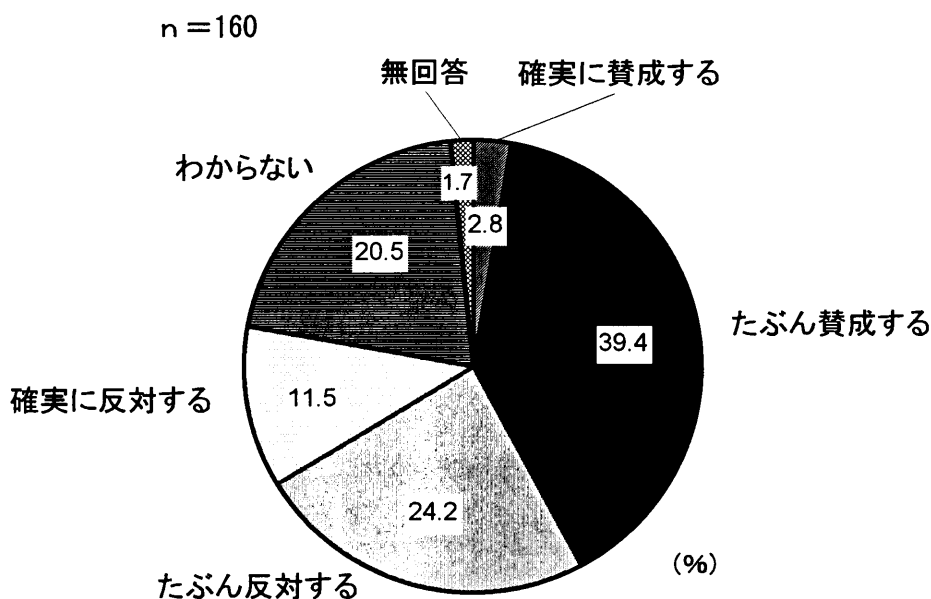


③月間 500 円の負担について尋ねた問 8 の「確実に反対する」、「たぶん反対する」又は「わからない」の回答者に対し、同様の整備条件のもと 1 世帯当たり月間 300 円（年間 3,600 円）を負担することの賛否を尋ねた。（問 10）

【全体の状況】

「確実に反対する」（11.5%）と「たぶん反対する」（24.2%）を合わせた反対の回答は 35.7% であるが、負担額が 300 円になることにより、賛成すると回答した方が 4 割強を占める。

図表 2-2-5-12 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額
（月間 300 円を負担することの賛否）



④月間 300 円の負担について尋ねた問 10 の「確実に反対する」、「たぶん反対する」又は「わからない」の回答者に対し、その理由を 2 つ以内回答可として尋ねた。(問 11)

【全体の状況】

「水源の保全には賛成だが、他の対策を取るべきだと思うから」(118 件中 56 件) がもっとも多く、次に「提示された負担額が高いから。もっと低い金額であれば賛成する」(29 件) が続く。

図表 2-2-5-13 森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担の反対理由
(月間 300 円の負担の反対理由)

水量および水質を保全するための負担額反対の理由(N=91)	回答数
水源の保全には賛成だが、他の対策を取るべきだと思うから	56
提示された負担額が高いから。もっと低い金額であれば賛成する	29
その他	25
この政策の恩恵を受ける地域に住んでいないと思うから	7
森林の荒廃や水質の汚濁がそれほど進んでいるとは思わないから	1
合計	118

森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額

(問8～問10 調査結果より)

最初の質問 (問8)				
負担額 (円)			割合 % (実数)	
パターン	月	年		
①	50	600	賛成	70.5 (290)
			反対	11.8 (46)
			不明	6.7 (30)
(n=410)				
②	100	1,200	賛成	67.5 (269)
			反対	14.5 (63)
			不明	10.4 (40)
(n=404)				
③	200	2,400	賛成	61.5 (251)
			反対	17.4 (73)
			不明	10.5 (42)
(n=414)				
④	300	3,600	賛成	60.8 (243)
			反対	18.5 (83)
			不明	12.3 (58)
(n=422)				
⑤	500	6,000	賛成	53.0 (219)
			反対	26.1 (108)
			不明	12.6 (52)
(n=415)				

追加の質問 (問9又は問10)			
負担額 (円)		割合 % (実数)	
月	年		
100	1,200	賛成	80.7 (235)
		反対	11.7 (35)
		不明	6.7 (18)
(n=290)			
200	2400	賛成	28.5 (22)
		反対	43.7 (31)
		不明	25.3 (20)
(n=76)			
200	2,400	賛成	66.2 (175)
		反対	22.1 (59)
		不明	11.3 (34)
(n=269)			
500	6000	賛成	32.7 (29)
		反対	38.5 (45)
		不明	25.2 (26)
(n=103)			
300	3,600	賛成	63.8 (159)
		反対	21.8 (58)
		不明	13.4 (32)
(n=251)			
100	1,200	賛成	34.2 (41)
		反対	42.9 (49)
		不明	20.6 (23)
(n=115)			
500	6,000	賛成	53.5 (126)
		反対	34.0 (86)
		不明	11.5 (28)
(n=243)			
200	2,400	賛成	34.9 (45)
		反対	36.1 (52)
		不明	27.3 (42)
(n=141)			
1,000	12,000	賛成	35.3 (77)
		反対	48.7 (106)
		不明	15.4 (35)
(n=219)			
300	3,600	賛成	42.2 (66)
		反対	35.7 (58)
		不明	20.5 (33)
(n=160)			

(注) 1 「賛成」は、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」の回答の合計である。

2 「反対」は、「確実に反対する」と「たぶん反対する」の回答の合計である。

3 「不明」は、「わからない」と回答したものである。

二段階設問を通じた受容率の試算

5種類のパターンごとに、1回目の質問（問8）、2回目の質問（問9、問10）それぞれの賛成者の実数値を整理し、負担額ごとに賛成者の合計の割合を総合結果とし試算したところ、以下のとおりである。※網掛けの数値は、1回目の質問で賛成した回答者を示す。

負担額 パターン		20円	50円	100円	200円	300円	500円	1,000円
① (n=410)	実数	22+290人 (n=410)	290人 (n=410)	235人 (n=410)				
② (n=404)	実数		29+269人 (n=404)	269人 (n=404)	175人 (n=404)			
③ (n=414)	実数			41+251人 (n=414)	251人 (n=414)	159人 (n=414)		
④ (n=422)	実数				45+243人 (n=422)	243人 (n=422)	126人 (n=422)	
⑤ (n=415)	実数					66+219人 (n=415)	219人 (n=415)	77人 (n=415)
総合結果	実数	312人 (n=410)	588人 (n=814)	796人 (n=1228)	714人 (n=1240)	687人 (n=1251)	345人 (n=837)	77人 (n=415)
	割合	(75.7%)	(73.0%)	65.1%	59.4%	56.5%	(42.8%)	(18.7%)

《表の見方（負担額100円の場合）》

- ・パターン②のグループに対する1回目の質問で、負担額100円に賛成した回答者（「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」の計）は269人（n=404）であった。
- ・また、パターン①のグループで、1回目の質問で負担額50円の賛成者に、2回目の質問で負担額100円の賛否を尋ねると235人（n=410）が賛成した。
- ・さらに、パターン③のグループで、1回目の質問で負担額200円の反対者に、2回目の質問で負担額100円の賛否を尋ねると41人（n=414）が賛成した。
- ・なお、パターン③においては、1回目の質問で負担額200円に賛成した回答者も100円の負担に賛成するとみなし、合わせて292人（41人+251人）が賛成したものとする。
- ・以上のことから、1回目、2回目の質問による賛成者の合計は『796人』であり、その母数の合計（1228）に対する割合をもとめた結果、受容率は『65.1%』となった。

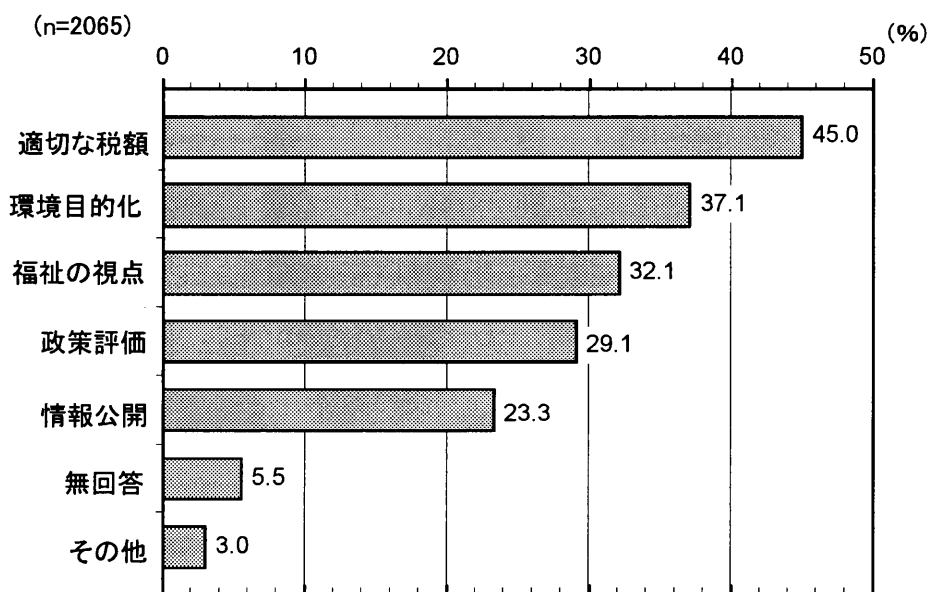
※総合結果の割合のうち、（ ）内は1回目の質問（問8）、賛成者への2回目の質問（問9）、反対者への2回目の質問（問10）の3種類の回答データが得られていない負担額に係る割合であるため、参考値である。

(3) 水環境保全のための新たな税の導入に当たっての配慮点 [問12 (MA)]

【全体の状況】

水環境を保全するための費用負担の方法の一つとして新たな税による負担が考えられることから、税の導入にあたっての配慮点を2つ以内回答可として尋ねたところ、「県民が納得できる水準の税額であること【適切な税額】」(45.0%)が最も多く、次いで「税金が水環境の保全目的にのみ利用されること【環境目的化】」(37.1%)、「高齢者世帯や低所得者層などには特別の配慮を行うこと【福祉の視点】」(32.1%)が続く。以下、「税制度の運営が適正かどうかをチェックするシステムが備わっていること【政策評価】」(29.1%)、「税金の使途がホームページや広報誌などで適正に公表されること【情報公開】」(23.3%)も回答者の2割以上が選択しており、すべての面において配慮を求める県民意識の高さがうかがえる。

図表 2-3-1 水環境保全のための新たな税の導入にあたっての配慮点



【性・年代別の状況】

性別の比較でみると、男女ともに全体結果と同様の、「適切な税額」、「環境目的化」、「福祉の視点」の順に上位を占めている。

性・年代別にみると、男性の40代以下の年代層で「政策評価」、また、男性、女性の60代以上で「福祉の視点」の比率がそれぞれ高く、第1～2位に順位をあげている。

また、男性の20代以下（29.4%）、女性の30代（34.5%）、40代（31.6%）では、「情報公開」が第3位にあがっている。

図表 2-3-2 水環境保全のための新たな税の導入にあたっての配慮点(性・年代別)

	全体	男性	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	女性	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
(n=)	2065	948	92	141	170	261	200	81	1091	119	151	219	277	221	99
県民が納得できる水準の税額であること(適切な税額)	45.0	44.8	50.4	47.5	43.5	40.5	43.3	51.8	46.0	54.3	52.2	52.6	41.0	33.5	45.8
税金が水環境の保全目的にのみ利用されること(環境目的化)	37.1	35.0	28.4	33.8	32.5	39.6	35.4	30.0	39.5	39.0	39.8	35.4	45.3	36.7	35.6
高齢者世帯や低所得者層などには特別の配慮を行うこと(福祉の視点)	32.1	31.7	26.7	29.7	22.4	27.9	40.4	46.0	32.9	24.2	25.9	21.0	32.1	45.7	42.9
税制度の運営が適正かどうかを、チェックするシステムが備わっていること(政策評価)	29.1	32.2	31.6	41.1	47.3	29.2	22.3	18.3	27.2	37.8	30.2	29.7	25.4	24.1	12.3
税金の使途がホームページや広報誌などで適正に公表されること(情報公開)	23.3	13.6	29.4	22.9	27.0	26.9	13.0	14.2	24.4	35.2	34.5	31.6	23.2	11.1	12.2
その他	3.0	3.9	5.0	5.5	4.1	3.4	1.7	6.1	2.3	1.1	4.8	3.9	0.5	1.8	2.3
無回答	5.5	12.7	4.8	4.3	4.5	4.6	9.7	5.0	12.0	0.2	1.1	2.7	7.8	7.5	10.8

(注) 選択肢は全体の回答率の高い順に並べ替えてある

【地域別の状況】

地域別にみても、すべての地域で「適切な税額」、「環境目的化」、「福祉の視点」が上位を占めている。

全体結果で第3位の「福祉の視点」は、横須賀三浦で第2位（36.3%）、西湘（40.6%）では第1位と高い比率を示している。

図表 2-3-3 水環境保全のための新たな税の導入にあたっての配慮点（地域別）

	全体	横浜	川崎	横須賀三浦	県央	湘南	足柄上	西湘	津久井
(n=)	2065	675	227	176	305	299	116	100	80
県民が納得できる水準の税額であること（適切な税額）	45.0	43.2	50.6	44.7	48.4	41.9	45.0	37.6	40.0
税金が水環境の保全目的にのみ利用されること（環境目的化）	37.1	37.4	36.4	34.6	38.6	37.2	37.5	32.7	40.0
高齢者世帯や低所得者層などには特別の配慮を行うこと（福祉の視点）	32.1	31.1	31.6	36.3	30.2	33.2	35.0	40.6	36.3
税制度の運営が適正かどうかを、チェックするシステムが備わっていること（政策評価）	29.1	28.6	29.4	29.6	30.2	31.6	21.7	19.8	25.0
税金の用途がホームページや広報誌などで適正に公表されること（情報公開）	23.3	24.0	22.9	17.3	24.0	24.6	21.7	24.8	17.5
その他	3.0	3.3	3.9	3.4	2.3	2.0	2.5	3.0	7.5
無回答	5.5	5.8	4.3	5.6	4.5	6.3	12.5	7.9	6.3

【世帯年収別の状況】

世帯年収別にみると、200万円以下（55.9%）、201～400万円（46.0%）では「福祉の視点」の比率が高く第1位となっているが、601万円以上では、全体結果より比率が低い。

1,401万円以上の世帯では、「政策評価」が第2位となり、高くなっている。

図表 2-3-4 水環境保全のための新たな税の導入にあたっての配慮点（世帯年収別）

	全 体	0 ～ 2 0 0 万 円	2 0 1 ～ 4 0 0 万 円	4 0 1 ～ 6 0 0 万 円	6 0 1 ～ 8 0 0 万 円	8 0 1 ～ 1 0 0 万 円	1 0 1 ～ 1 2 0 万 円	1 2 1 ～ 1 4 0 万 円	1 4 1 万 円 以 上
(n=)	2065	91	359	436	338	237	144	70	93
県民が納得できる水準の税額であること（適切な税額）	45.0	32.9	42.7	48.4	47.4	47.8	45.7	44.3	45.4
税金が水環境の保全目的にのみ利用されること（環境目的化）	37.1	15.3	31.3	39.7	38.8	43.1	42.5	46.7	40.0
高齢者世帯や低所得者層などには特別の配慮を行うこと（福祉の視点）	32.1	55.9	46.0	32.4	25.5	22.4	23.9	25.7	25.1
税制度の運営が適正かどうかを、チェックするシステムが備わっていること（政策評価）	29.1	27.4	21.1	32.4	32.6	31.5	27.0	38.8	43.8
税金の使途がホームページや広報誌などで適正に公表されること（情報公開）	23.3	19.2	16.2	22.8	25.3	26.9	27.0	25.1	20.6
その他	3.0	1.2	4.2	3.2	2.7	2.6	4.0	0.8	1.3
無回答	5.5	5.7	10.0	2.7	4.5	3.7	5.4	3.6	4.1

【「上水道の水質に対する安心感」別の状況】

上水道の水質に対する安心感別にみると、「十分に安心できる」の回答者において、「福祉の視点」(46.2%)の比率が特に高い。

また、「かなり不安である」の回答者においては、「適切な税額」(36.7%)よりも「環境目的化」(38.2%)が高くなっている。

図表 2-3-5 水環境保全のための新たな税の導入にあたっての配慮点
(上水道の水質に対する安心感別)

	全体	十分に安心できる	まあまあ安心できる	やや不安である	かなり不安である
(n=)	2065	152	915	721	228
県民が納得できる水準の税額であること(適切な税額)	45.0	47.4	47.2	44.6	36.7
税金が水環境の保全目的にのみ利用されること(環境目的化)	37.1	35.4	37.7	35.2	38.2
高齢者世帯や低所得者層などには特別の配慮を行うこと(福祉の視点)	32.1	46.2	32.9	30.1	26.2
税制度の運営が適正かどうかを、チェックするシステムが備わっていること(政策評価)	29.1	16.7	28.8	31.3	33.7
税金の使途がホームページや広報誌などで適正に公表されること(情報公開)	23.3	13.4	21.7	25.0	30.0
その他	3.0	4.9	2.7	3.9	11.9
無回答	5.5	5.1	4.8	5.7	6.9

【「水源の森林づくり事業に対する考え方」別の状況】

水源の森林づくり事業に対する考え方別にみると、いずれも「適切な税額」、「環境目的化」、「福祉の視点」が上位を占めている。

「現状より規模を縮小した方がよい」の回答者は、「福祉の視点」(51.4%)が最も高くなっている。

図表 2-3-6 水環境保全のための新たな税の導入にあたっての配慮点
 (「水源の森林づくり事業」に対する考え方別)

	全 体	た た 現 方 大 が し よ り よ て り 実 規 施 模 し を	い 現 状 の 規 模 で よ	い 縮 現 小 状 し よ り た り 方 規 模 を よ	よ く わ か ら な い
(n=)	2065	1097	465	21	454
県民が納得できる水準の税額であること(適切な税額)	45.0	43.1	48.6	31.9	47.8
税金が水環境の保全目的にのみ利用されること(環境目的化)	37.1	44.0	32.0	34.3	25.8
高齢者世帯や低所得者層などには特別の配慮を行うこと(福祉の視点)	32.1	31.9	30.3	51.4	33.6
税制度の運営が適正かどうかを、チェックするシステムが備わっていること(政策評価)	29.1	30.5	30.0	11.9	26.2
税金の使途がホームページや広報誌などで適正に公表されること(情報公開)	23.3	23.8	23.4	23.1	21.9
その他	3.0	3.1	2.5	11.0	2.8
無回答	5.5	3.7	5.8	7.1	8.7

【「相模川上流ダム湖の水質に対する認知度」別の状況】

相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別にみると、「詳しく知っていた」の回答者において、「環境目的化」（46.9％）の比率が特に高くなっている。

また、「知らなかった」の回答者では、「政策評価」（31.4％）が、「福祉の視点」（30.3％）と入れ替わり、第3位となっている。

図表 2-3-7 水環境保全のための新たな税の導入にあたっての配慮点
(相模川上流ダム湖の水質に対する認知度別)

	全 体	詳 しく 知 つ て い た	知 つ て い た	知 ら な か つ た
(n=)	2065	103	938	1012
県民が納得できる水準の税額であること（適切な税額）	45.0	32.3	41.8	49.0
税金が水環境の保全目的にのみ利用されること（環境目的化）	37.1	46.9	38.8	34.7
高齢者世帯や低所得者層などには特別の配慮を行うこと（福祉の視点）	32.1	37.2	33.5	30.3
税制度の運営が適正かどうかを、チェックするシステムが備わっていること（政策評価）	29.1	30.7	26.7	31.4
税金の使途がホームページや広報誌などで適正に公表されること（情報公開）	23.3	20.5	23.4	23.6
その他	3.0	8.4	2.9	2.8
無回答	5.5	3.0	6.9	4.4

【森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額（問8）別の状況】

森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額別にみると、費用負担額（月間50円～500円の5パターン）の多寡にかかわらず、「確実に賛成する」と「たぶん賛成する」を合わせた賛成の回答者において、「適切な税額」、「環境目的化」の回答割合がおおむね高くなっている。

逆に、「確実に反対する」と「たぶん反対する」を合わせた反対の回答者においては、「政策評価」の回答割合が高くなっている。

また、費用負担に賛成の回答者においては、負担額が高くなると、「環境目的化」の回答割合が高くなっている。

図表 2-3-8 水環境保全のための新たな税の導入にあたっての配慮点

（森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額別／パターン1・月間50円の場合）

	全体	確実に賛成する	たぶん賛成する	たぶん反対する	確実に反対する	わからない
(n=)	410	83	207	36	10	30
県民が納得できる水準の税額であること（適切な税額）	45.0	46.8	54.2	33.7	0.0	32.8
税金が水環境の保全目的にのみ利用されること（環境目的化）	37.1	36.5	42.2	24.9	31.4	43.4
高齢者世帯や低所得者層などには特別の配慮を行うこと（福祉の視点）	32.1	33.9	29.6	25.2	19.6	36.0
税制度の運営が適正かどうかを、チェックするシステムが備わっていること（政策評価）	29.1	32.5	24.0	35.0	37.5	38.0
税金の使途がホームページや広報誌などで適正に公表されること（情報公開）	23.3	33.5	23.1	33.2	10.2	14.2
その他	3.0	2.8	1.2	4.0	34.0	4.5
無回答	5.5	1.1	2.9	10.3	16.6	0.7

図表 2-3-9 水環境保全のための新たな税の導入にあたっての配慮点

(森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額別/パターン2・月間100円の場合)

	全体	確実に賛成する	たぶん賛成する	たぶん反対する	確実に反対する	わからない
(n=)	404	69	200	43	20	40
県民が納得できる水準の税額であること(適切な税額)	45.0	45.6	53.8	25.4	7.3	45.0
税金が水環境の保全目的にのみ利用されること(環境目的化)	37.1	40.1	43.7	29.4	18.7	20.8
高齢者世帯や低所得者層などには特別の配慮を行うこと(福祉の視点)	32.1	27.6	33.1	41.2	24.8	25.1
税制度の運営が適正かどうかを、チェックするシステムが備わっていること(政策評価)	29.1	36.4	23.7	43.0	39.9	26.0
税金の使途がホームページや広報誌などで適正に公表されること(情報公開)	23.3	29.6	22.2	33.9	23.0	34.6
その他	3.0	0.0	1.8	0.9	27.9	0.0
無回答	5.5	3.5	2.9	7.0	7.2	12.6

図表 2-3-10 水環境保全のための新たな税の導入にあたっての配慮点

(森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額別/パターン3・月間200円の場合)

	全体	確実に賛成する	たぶん賛成する	たぶん反対する	確実に反対する	わからない
(n=)	414	49	202	56	17	42
県民が納得できる水準の税額であること(適切な税額)	45.0	58.3	49.4	22.8	17.8	47.6
税金が水環境の保全目的にのみ利用されること(環境目的化)	37.1	49.1	46.1	29.2	11.9	17.2
高齢者世帯や低所得者層などには特別の配慮を行うこと(福祉の視点)	32.1	29.3	32.1	38.1	24.0	35.6
税制度の運営が適正かどうかを、チェックするシステムが備わっていること(政策評価)	29.1	23.7	29.7	42.3	40.7	19.8
税金の使途がホームページや広報誌などで適正に公表されること(情報公開)	23.3	21.1	21.8	22.2	21.0	12.1
その他	3.0	0.4	0.0	8.4	20.6	5.9
無回答	5.5	2.3	2.4	2.7	13.6	16.4

図表 2-3-11 水環境保全のための新たな税の導入にあたっての配慮点

(森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額別/パターン 4・月間 300 円の場合)

	全体	確実に賛成する	たぶん賛成する	たぶん反対する	確実に反対する	わからない
(n=)	422	52	191	67	16	58
県民が納得できる水準の税額であること(適切な税額)	45.0	34.0	50.6	45.1	21.1	41.5
税金が水環境の保全目的にのみ利用されること(環境目的化)	37.1	50.2	34.2	26.5	0.0	28.1
高齢者世帯や低所得者層などには特別の配慮を行うこと(福祉の視点)	32.1	39.2	36.4	31.0	18.2	27.1
税制度の運営が適正かどうかを、チェックするシステムが備わっていること(政策評価)	29.1	24.4	29.8	40.3	48.0	30.1
税金の使途がホームページや広報誌などで適正に公表されること(情報公開)	23.3	24.4	16.4	15.1	36.2	29.0
その他	3.0	0.0	0.7	4.4	23.2	3.3
無回答	5.5	4.6	6.3	5.8	20.3	12.4

図表 2-3-12 水環境保全のための新たな税の導入にあたっての配慮点

(森林整備及び生活排水処理施設整備に対する費用負担受容額別/パターン 5・月間 500 円の場合)

	全体	確実に賛成する	たぶん賛成する	たぶん反対する	確実に反対する	わからない
(n=)	415	45	174	85	23	52
県民が納得できる水準の税額であること(適切な税額)	45.0	23.8	44.8	42.4	29.8	51.3
税金が水環境の保全目的にのみ利用されること(環境目的化)	37.1	53.3	41.6	37.7	18.8	23.2
高齢者世帯や低所得者層などには特別の配慮を行うこと(福祉の視点)	32.1	31.0	31.6	26.3	2.5	23.7
税制度の運営が適正かどうかを、チェックするシステムが備わっていること(政策評価)	29.1	37.2	25.8	38.0	53.9	23.6
税金の使途がホームページや広報誌などで適正に公表されること(情報公開)	23.3	15.1	29.4	17.9	29.2	41.1
その他	3.0	2.1	2.7	5.1	14.5	4.8
無回答	5.5	10.4	1.5	9.6	8.0	6.4